

# 戸田建設 CSRレポート2008



TODA CORPORATION

# 会社概要

## profile

会社名 戸田建設株式会社

(英訳名 TODA CORPORATION)

本社 東京都中央区京橋一丁目7番1号 〒104-8388

- 事業内容
- ① 建築一式工事、土木一式工事等に関する調査、企画、設計、監理、施工、その総合的エンジニアリングおよびコンサルティング業務
  - ② 地域開発、都市開発等に関する調査、企画、設計、監理、施工、その総合的エンジニアリングおよびコンサルティング業務
  - ③ 不動産の売買、賃貸、仲介、管理および鑑定 等

創業 1881年(明治14年)1月5日

設立 1936年(昭和11年)7月10日

資本金 230億円(2008年3月31日現在)

従業員数 4,103名(2008年3月31日現在)

本社・支店 13カ所

## 業績の推移

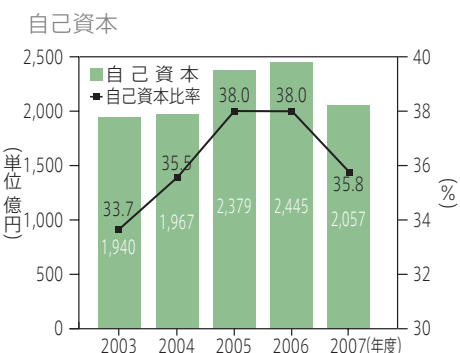
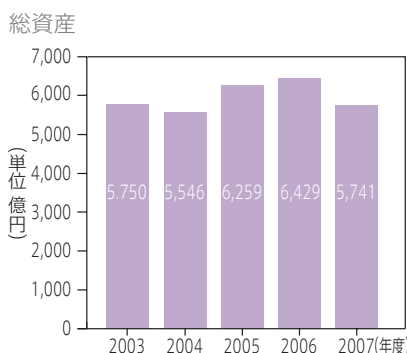
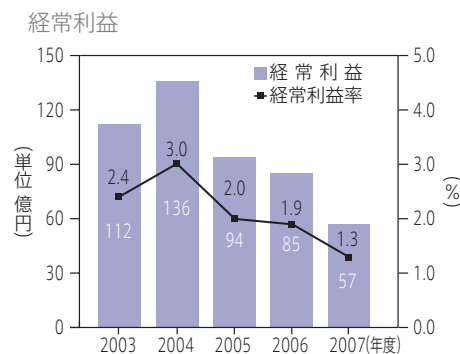
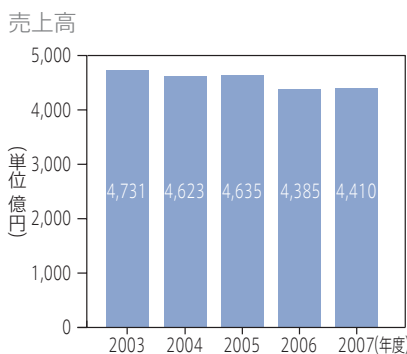
### data



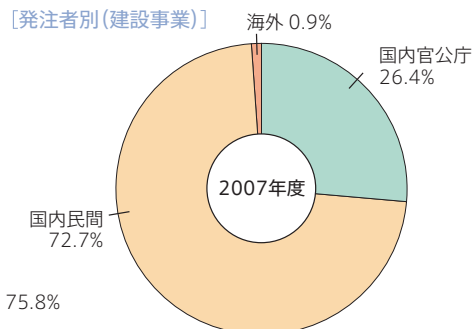
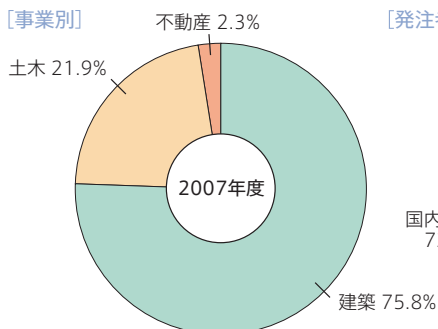
表紙について:有楽町イトシア  
(東京都千代田区)

有楽町マルイと賃貸オフィスの「イトシアタワー(高層棟)」、専門店や映画館などの「イトシアプラザ(低層棟)」からなる、東京の新しいランドマーク。景観面、機能面、環境面ともに魅力ある都市空間が実現され、日々、訪れる人々の活気が満ちあふれています。

- 発注者:有楽町駅前第1地区市街地再開発組合
- 設計:(株)三菱地所設計
- 施工:戸田建設(株)、他5社JV
- 竣工:2007年10月



### 売上高の構成(比率)



# CONTENTS

会社概要、業績の推移、編集方針	P1
トップメッセージ	P3
戸田建設の理念とCSR	P7

## 想い1 「堅実・公正」 堅実・公正な活動を支える経営基盤を充実させる

コーポレート・ガバナンスの強化	P9
コンプライアンスの徹底	P10
リスク管理、内部統制への取り組み	P12

## 想い2 「ものづくり」 ものづくりを通じて社会の発展に貢献する

■特集レポート①「人」と「環境」をつなぐものづくり	P13
■特集レポート② 地域の生活と調和し、社会要請に応えるものづくり	P15

### 最良の品質を皆さまに

安心・安全をお届けする品質管理体制	P17
良質な建設物を次代へ	P19
地震災害への備え	P21
お客さま満足度向上への取り組み	P22

### 地球環境を大切に

環境理念と推進体制、「地球温暖化防止」のために	P23
事業活動による環境影響とその環境対策	P25
重点活動項目の活動結果と計画	P26
建設副産物の削減対策と温室効果ガスの発生抑制	P27
グリーン調達推進と有害・化学物質のリスク管理	P28
生態系保全と環境教育	P29
環境会計の結果	P30

## 想い3 「働きがい」 働きがいのある「場」をつくり出す

■特集レポート③ 協力会社とともにつくる「戸田ブランド」	P31
生き活きと働くために	P33
安全で快適な職場環境の実現	P35
協力会社との技術交流、技能者の育成	P36

## 想い4 「コミュニケーション」 元気で明るい対応、コミュニケーションを促進する

■特集レポート④ 仮囲いを利用したコミュニケーション	P37
地域社会への貢献	P39
I R 活動	P41
企業活動情報の開示	P42



## 編集方針

戸田建設は1998年より環境報告書、2005年からは環境・社会活動報告書を発行し、企業活動情報の開示に努めてまいりました。本年からは、CSR(企業の社会的責任)に関する説明責任を強化するとともに、より多くのステークホルダーの皆さまの信頼と共感をいただくことを目的に、「CSRレポート」として、内容の刷新を図りました。

ステークホルダーの皆さまは、たくさんの想いを持ち、当社とかがわっています。その一つひとつをつないでいくことで、真に価値のあるものが生まれ、人々の生活を豊かにすることができると、当社は考えております。本レポートでは、この観点から、想いに応えるための取り組みを「4つのCSR課題」として整理し、その背景にある考え方や方針とともに編集いたしました。また、「特集レポート」、「社員の声」や「用語解説」など、当社の活動を、より深くご理解いただけるような工夫をいたしました。

■対象期間: 2007年度(2007年4月～2008年3月)の活動を中心に、一部、期間以降の最新情報も記載しています。

■対象範囲: 戸田建設の活動を中心に、一部、関係会社、協力会社等における活動も記載しています。

■発行予定: 次回発行予定は2009年9月です。

理想とする会社像は、  
働きがいがあって、元気で明るく、  
堂々として、品格のある会社



代表取締役社長

井上舜三

## 想いをつなぎ 安心・安全な社会の構築に貢献する

建設業は、人々が生活していくために必要な住宅や社会資本を整備し、社会的財産を創造していく、社会性、公益性が非常に高い産業です。当社の経営方針では、「建設を通じて社会福祉の増進に貢献する」と、自らの存在意義を掲げています。私たちは、事業に対する誇りとともに、安心・安全で、快適な社会の構築に貢献するという使命感を持って活動していかなくてはならないと認識しています。

また、私は、建設業とは「人と人のかかわり」であると考えています。建設物をつくるということは、発注者はもとより、エンドユーザーや地域の方々、協力会社、社内の各部門など、多くの人々との関係の中で成り立っています。同時に、こうした人々が建設物や当社に寄せる想いもさまざまですので、私たちは、それら一つひとつを真摯に受け止め、日々、行動していく必要があります。たくさんの方々の想いをつなぎ、気持ちを一つにすることで、真に価値あるものが生まれてきます。

## よい仕事をおさめ 一つひとつ信頼関係を築く

ステークホルダーの皆さまが当社に求めるものの中で、最も基本的で大切なことは、建設物の品質や安全性を高めていくこと、つまり、ものづくりの強化にあると認識しています。私は、これには大きく二つの側面があると考えています。一つは、建設物の土台である杭や基礎、コンクリートなど、建設物の構造にかかわる“基礎品質”といえる部分を、しっかりと作り込むということです。

しかし、こうした部分は、一度、建設物が完

成すると、お客さまが実際に目で見て、手で触れて確かめることができなくなるものがほとんどです。それゆえ、品質確保に向けた地道な取り組みとともに、企業としての在り方、社員の気質そのものが問われてくるといっても過言ではありません。

当社では、創業以来「よい仕事をおさめる」という誠実な姿勢を大切にしてきました。このことは、現在も当社の誇るべき風土として受け継がれています。今後も、この言葉が持つ意味を常に確認しながら、妥協のないものづくりを進め、お客さまとの信頼関係を一つひとつ築いていきたいと考えています。

## 期待される企業として 成長を果たす

もう一つの側面は、環境性能や使い勝手、デザインなど、建設物の魅力や付加価値を高めていくことです。また、コスト縮減や工期短縮なども、ここに含まれます。

これらは、時代の要請やお客さまが抱える課題によって、求められるものは多様であり、また近年、高度化、複雑化しつつあります。ですから、これに対応すべく、当社は企業として成長を続け、着実に発展を遂げていかなくてはなりません。ただし、ここで述べている成長とは、単に規模や利益を追求するものではありません。お客さまや社会のニーズに対応していくことのできる技術力を持ち合わせ、期待される企業となることが、成長であるとは私は考えます。また、そのために、当社のものでづくりを支える社員や協力会社の育成に努め、モチベーションを高めていかなくてはなりませんし、リスク管理や内部統制システムなどの経営基盤を強化していくことも必要となってきます。



「経営ビジョン発表会」の様子

## 社会、環境問題と向き合い 対応を強化していく

近年、環境問題に対する社会の関心が高まっています。このことは、環境への取り組みが、お客さまにとって企業を選別する際の判断基準の一つとなっていることに他なりません。当社の成長を考える上でも重要な要素となっているといえるでしょう。

当社では、建設現場におけるごみの削減に早くから取り組み、2000年には、建設業で初めてゼロエミッションを達成するなど、建設廃棄物対策には先駆者としての歴史と実績があると自負しています。また、環境経営の推進に向けた活動目標を設定するとともに、環境配慮設計の推進や環境関連技術の開発を通じ、建設ライフサイクル全般におけるCO<sub>2</sub>削減や環境負荷低減への取り組みを強化しています。

さらに今、重視されているのは、人と自然との共生、持続可能な社会づくりに向けた対応であり、幅広いステークホルダーとともに社会的課題と向き合っていく必要があります。また、「長く大切に使う」という観点から、建物の長寿命化や既存構造物のリニューアル、耐震化などへの対応も求められ、これらに対する取り組みを着実に進めていかななくてはなりません。

## 信念を持った行動が 品格につながる

社会情勢をはじめ、当社を取り巻く経営環境は大きく変化しています。また、企業間の競争が激化し、コンプライアンスに対する社会の目も、ますます厳しいものとなってきています。

こうした中、私は、今こそ当社を、これまでで

上に、若々しい力にあふれ、かつ社会に開かれた企業としていかななくてはならないと考えています。2007年の12月には、これからの会社の方向性について、社員との共通認識を図るため、「経営ビジョン発表会」を開催しました。ここで、「働きがいがあって、元気で明るく、堂々として、品格のある会社」を、理想とする会社像として掲げました。

その中でも、大切にしたいのは「堂々として、品格のある」という部分です。高いモチベーションを持った社員が、正々堂々と、信念を持って行動する。このことが、胸を張って、お客さまにより仕事をおさめることとなり、当社に対する評価につながると考えているからです。「企業は人」です。強い思いを持った社員一人ひとりが、品格をつくり出していくことになるのです。

## 変革を進め 新たな風土を醸成する

また、理想の会社像に向けた変革のキーワードとして「スピード、チャレンジ、コミュニケーション」を掲げています。これは、社員の行動指針でもあります。一人ひとりが、当社の良い伝統を引き継ぎつつ、ここからさらに一段上へと成長を目指していくには、この三つの要素が不可欠となってきます。

社会の変化に合わせ、決断と行動のスピードを速めていかななくてはなりませんし、問題に対してすぐに意見が交わされるといった風土が、仕事の質を高めることにつながります。また、社員には「この仕事は自分の領域ではないから」と、自らの可能性を狭めないようにしてほしいと考えています。さまざまな挑戦を積極的におこない、より良い提案ができるように、

## 井上 舜三(いのうえ しゅんぞう)

### 【略 歴】

1965年4月 戸田建設(株)入社  
 1995年3月 東京支店 支店次長(建築施工担当)  
 1997年6月 取締役 建築工事統轄部長  
 1999年6月 常務取締役  
 2003年6月 専務取締役  
 2005年6月 取締役、専務執行役員  
 2007年6月 代表取締役社長



社員には平素より研鑽を重ねることを求めています。

スピード、チャレンジ、コミュニケーションが三位一体となり、社員の中に根付くことで、組織はおのずと活性化してきます。同時に、社会から何を求められているかを鋭敏に感じ取り、その持続的発展に貢献する企業となることができると考えています。

### 企業理念の実践を通じ CSRを推進する

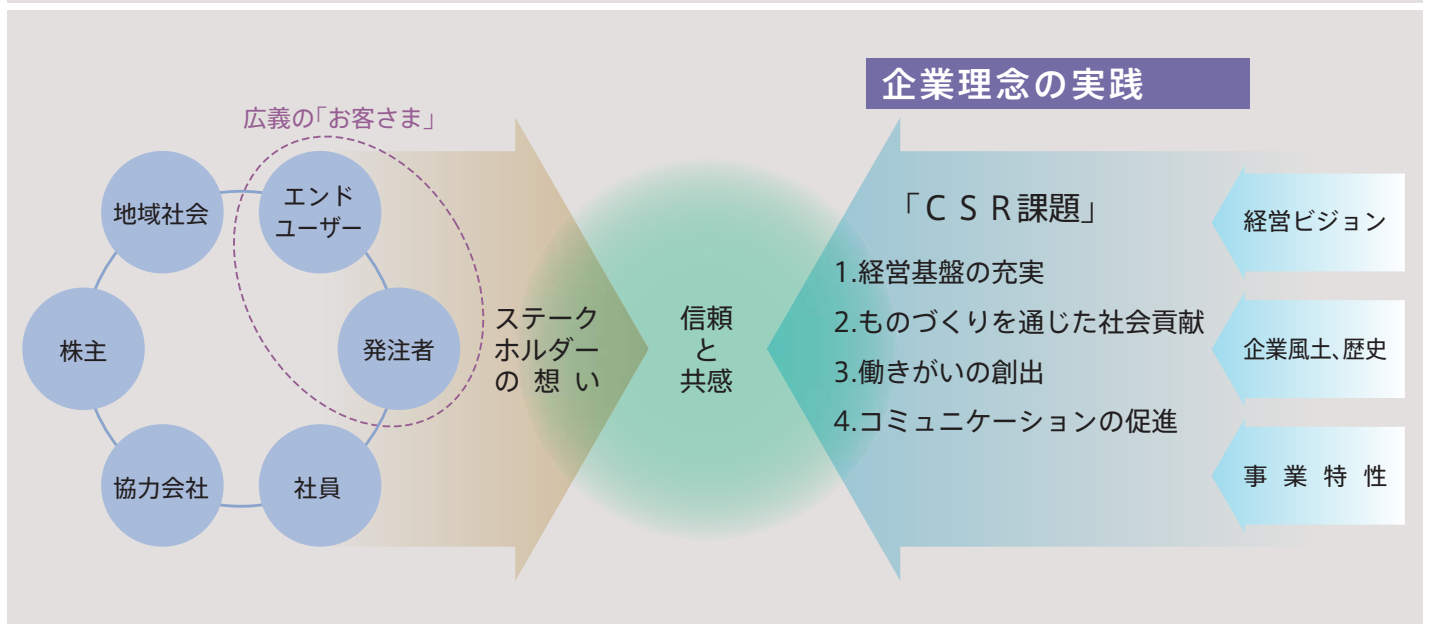
当社のCSR(企業の社会的責任)は、「働きがいがあって、元気で明るく、堂々として、品格のある会社」という言葉に凝縮されているというのが、私の認識です。これまで述べてきましたように、当社には誇るべき風土や伝統、理念があり

ます。そして、これを土台に、社会から有用な存在として受け入れられるよう、経営の方向性を確認しながら進んでいかななくてはなりません。

CSR課題として掲げている四つのテーマは、理想の会社像に近づくためのプロセスや取り組み課題を、経営方針などの企業理念の実践という観点を踏まえて、より分かりやすく整理したものです。それぞれの取り組みが進展し、相乗効果を示していくことにより、社会から信頼され、期待される企業として成長を続けていきたいと考えています。また、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを一層重視し、信頼と共感をいただけるよう努めていきたいと思ひます。

2008年9月

### ステークホルダーと企業理念の実践

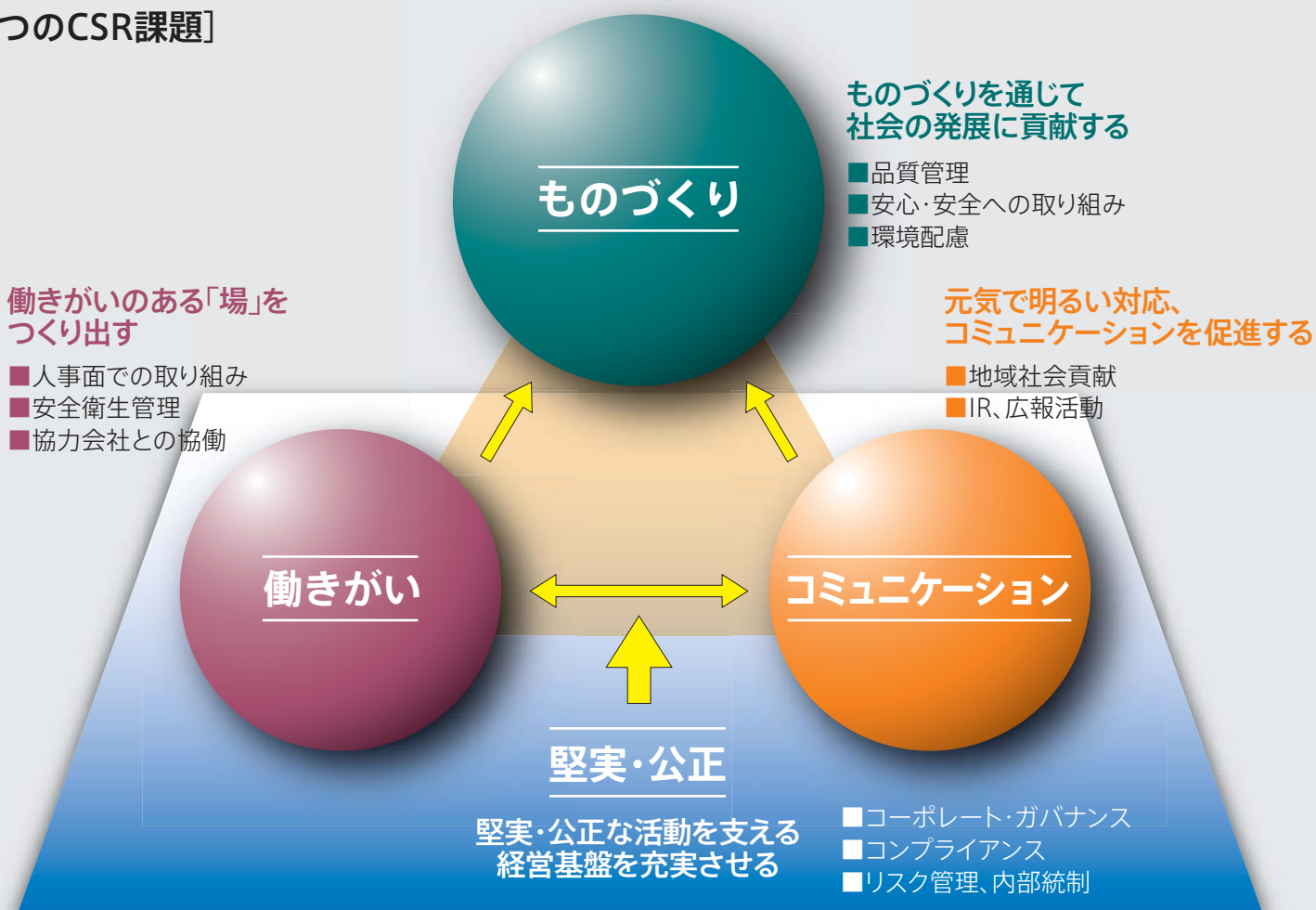


# 戸田建設の理念とCSR

企業理念の実践を通じて、  
「働きがいがあって、元気で明るく、堂々として、品格のある会社」  
を目指すことが、当社のCSRです。

想いを、つなぐ。ステークホルダーの「想い(期待や要請)」一つひとつを真摯に受け止め、  
期待を上回る価値を創造し続けていく。  
今までもこれからも、戸田建設は、安全で豊かな、そして持続可能な社会づくりに貢献していきます。

## [4つのCSR課題]



## [企業理念の実践]





## 経営方針

1. 当社は建設を通じて社会福祉の増進に貢献する。
2. 社会の信用を基として社業の発展を図る。
3. 堅実な経営を行い、適正利益の確保を基として社業の安定を図る。

## 企業行動憲章

私たち戸田建設は、経営方針に掲げる「建設を通じて社会福祉の増進に貢献する」ことが自らの存在理由であるとの認識のもと、多くの皆様との信頼関係の構築と健全で継続的な社業の発展を推進すべく、ここに『戸田建設 企業行動憲章』を制定し、広く社会に宣言いたします。

制定 2003年12月25日 改定 2007年11月27日

### 1. 良質な建設物およびサービスの提供

戸田建設は、多様化する顧客・社会のニーズに応え、品質と安全性に優れた建設物・サービスの提供に努めます。

### 2. 法令の遵守等

戸田建設は、国内外の法及びその精神を遵守すると共に、基本的人権を尊重し、社会的良識のもと、誠実かつ適切に行動します。

### 3. 公正かつ適正な取引

戸田建設は、独占禁止法等を遵守し、公正、透明かつ自由な競争及び適正な取引を行うと共に、政治・行政との健全かつ正常で透明な関係を維持します。

### 4. 企業情報の開示

戸田建設は、株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションをはかり、企業情報を正確かつ公正に、適時開示します。

### 5. 働きやすい職場環境の実現

戸田建設は、自社、グループ企業及び協力会社の従業員等、広く関係する人々のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい環境を確保すると共に、多様性と人格・個性を尊重し、資質・能力を最大限発揮できる職場環境を実現します。

### 6. 地球環境への配慮

戸田建設は、企業活動の全領域で環境との共生に努め、より良い環境の創造と保全に向けた取り組みを積極的に行います。

### 7. 社会への貢献

戸田建設は、企業の利益と社会の利益を調和させ、「良き企業市民」としての役割を積極的に果たします。

### 8. 反社会的勢力との関係遮断

戸田建設は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を遮断し、全社一体の毅然とした対応を徹底します。

### 9. 率先垂範

戸田建設の経営トップは、本憲章の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、管理指導、社内体制の整備、グループ企業への周知を行うと共に、万一本憲章に反するような事態が発生したときは原因究明、情報開示にあたり、自らを含め責任を明確にして、再発防止策を徹底するものとします。

以上

## 社長現場訓

- 一、今日一日 無駄をはぶき親切を旨としよい仕事を致しましょう
  - 一、今日一日 期限には絶対 遅れない様心掛けましょう
  - 一、今日一日 誓って事故を起さ無い様注意致しましょう
- 以上遂行の為常に研鑽怠らず 吾人の技術を最高度に導く様努力致しましょう

社長現場訓は、昭和30年代半ばにつくられた、当社の行動理念です。ここに示されている仕事への誠実な姿勢は、社員共有の価値観として、現在に至るまで着実に受け継がれてきています。

# 堅実・公正な活動を支える経営基盤を充実させる

## コーポレート・ガバナンスの強化

社会的信頼と競争力を高め、継続的な企業価値の向上を果たすため、コーポレート・ガバナンスの強化・充実に取り組んでいます。

### コーポレート・ガバナンス

企業経営を規律するためのしくみ。企業統治。

### 取締役会および業務執行機能の強化

当社は、会社法に基づく株主総会、取締役会、監査役(会)に加え、執行役員制度や内部監査など独自のしくみを構築しています。

取締役会は9名の取締役(2008年6月27日現在)により構成され、経営の意思決定、業務執行状況の監督をおこなっています。経営責任を明確にし、経営体質の強化とともに、経営環境の変化への迅速な対応が可能となるよう、取締役の任期は1年としています。

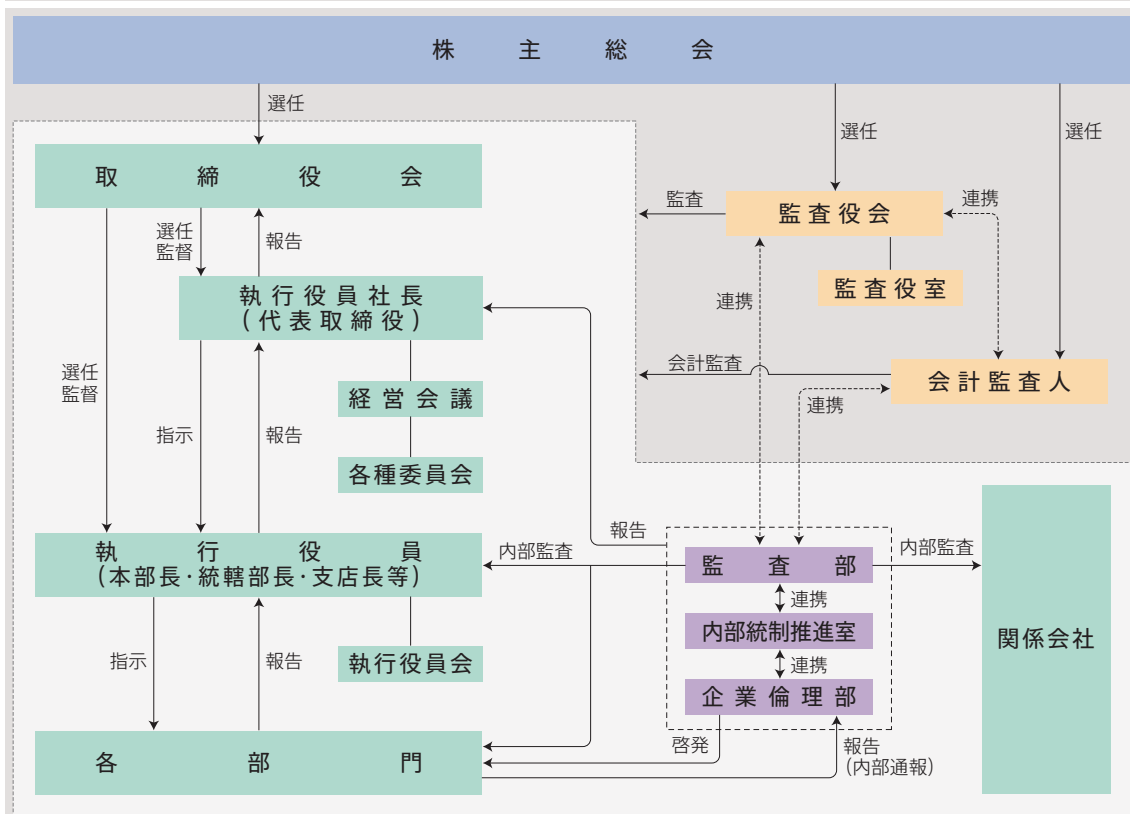
2005年6月より、迅速かつ効率的な業務執行体制の確立を目的に、執行役員制度を採用しています。取締役会により選任された執行役員は、取締役会が決定した経営の基本方針にしたがって、執行役員社長(代表取締役、以下「社長」)の指揮の下、当社業務を執行しています。

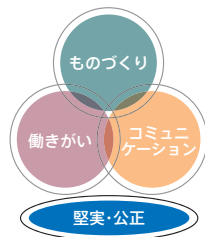
### 監査体制の充実

当社は監査役制度を採用し、監査役は取締役会への出席などを通して、適法性・妥当性の監査をおこなっています。2008年6月より社外監査役を1名増員し、社内監査役2名、社外監査役3名となりました。また、監査役の職務を補助する部門である監査役室の人事、組織変更については、あらかじめ監査役会または監査役会が指名する監査役の意見を求めることが規定されており、取締役および執行役員からの独立性を保持しています。

内部監査部門として監査部を設置し、定期的に社内各部門の業務状況の監査を実施しています。また、監査役、会計監査人に対しては、監査結果の報告や意見交換をおこなうなど、相互連携を図っています。関係会社に対しても、関係会社管理規程に基づき監査を適宜実施しています。

### コーポレート・ガバナンス体制





## コンプライアンスの徹底

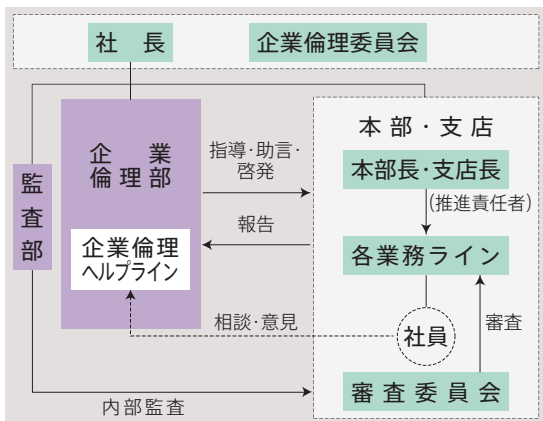
コンプライアンスを最優先に、役員・社員一人ひとりが、ステークホルダーの関心に配慮した行動を実践し、健全な事業活動を推進しています。

### コンプライアンス体制の整備

企業倫理委員会をはじめ、企業倫理部、監査部、審査委員会などを設置し、体制の強化に努めています。企業倫理委員会では、コンプライアンスに関する重要方針を審議し、企業倫理部では、「企業行動憲章」「行動規範」の制定、企業倫理ヘルプラインの運用などコンプライアンスの徹底に向けた施策を推進しています。

監査部のほかに、総務・法務・財務・経理部門の部門長による審査委員会を週一回開催し、稟議書などの申請内容について、事前にチェックする体制を整えています。

#### コンプライアンス体制



### 行動規範の制定

企業行動憲章の理念を受け、役員・社員一人ひとりが日ごろ心がけ、行動に反映すべき指針として、「戸田建設 行動規範」を制定しています。

#### 「戸田建設 行動規範」の項目

1. 総則
2. 社会との関係
3. お客さま、協力会社、競争会社等との関係
4. 株主、投資家等との関係
5. 社員との関係
6. 会社、会社財産との関係
7. 運用体制

2007年11月の企業行動憲章の改定に合わせ、独占禁止法遵守に関する規定のほか、BCP(事業継続計画)にもとづく地域貢献、人権・多様性の尊重などについても追加しています。

### 周知・啓発活動

コンプライアンスを社内に周知徹底するため、小冊子「戸田建設のコンプライアンス」を全社員に配布しています。また、イントラネット上に「企業倫理部のホームページ」を開設し、より日常的な啓発もおこなっています。

階層別教育として、集合研修の場や「eラーニングシステム」などを活用して、効果的な企業倫理研修を実施しています。また、法務部による法令教育を実施するなど、業務にかかわる法令の習得に努めています。

### 企業倫理アンケートの実施

コンプライアンスに対する社員の意識を把握することを目的として、「企業倫理アンケート」を実施しています。2008年4月に実施した第4回調査では、おおむね良好な結果が得られていますが、今後とも、コンプライアンス意識の向上に向けた取り組みを強化していきます。

#### アンケート結果(抜粋)

調査対象：全社員3,990名(新入社員等を除く)  
回答：3,126名(回答率78.3%)

Q.職場にコンプライアンスは重要だという認識が浸透していると思いますか。

回数	思う	どちらかと言えば思う	あまり思わない	思わない
第4回	38.5%	50.4%	9.6%	1.6%
第3回	36.3%	49.5%	12.3%	2.0%
第2回	34.9%	49.5%	13.8%	1.8%

Q.当社には「企業倫理ヘルプライン」(社内通報制度)が設置されていることを知っていますか。

回数	知っている	知らない
第4回	77.0%	23.0%
第3回	60.4%	39.6%
第2回	56.2%	43.8%

#### コンプライアンス

当社では「法令の遵守はもとより、経営理念と社会倫理に基づき行動すること。また、このような行動を確実に遂行できるよう、規範・規程や体制等を整備していくこと。」と定義している。

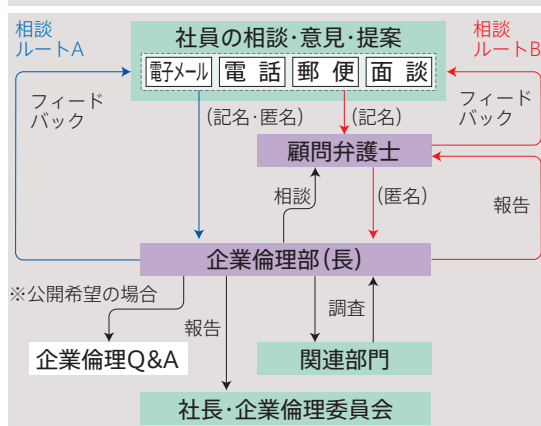
## 独占禁止法

1947年に制定された「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」のこと。公正かつ自由な競争を促進し、事業者が自主的な判断で自由に活動できるようにすることを目的としている。

## 企業倫理ヘルプラインの活用

社員が行動規範に違反、またはその恐れがある行為を発見した際は、上司に相談するか、「企業倫理ヘルプライン」を活用することで、問題の未然防止・早期解決を図っています。企業倫理ヘルプラインを通じて相談を受け付ける場合は、相談者に不利益がないよう、細心の注意を払っています。2007年11月には、社内(企業倫理部長)に限られていた相談ルートについて、顧問弁護士を窓口としたルートを加えることで、よりプライバシーに配慮し、相談しやすい制度としました。

## 企業倫理ヘルプラインのしくみ



## 信頼回復に向けて

2007年度、当社において公共工事の入札をめぐる独占禁止法(以下、「独禁法」)違反事件に関し、行政当局より営業停止等の処分を受ける事態が発生いたしました。

当社では、このような事態に至ったことを厳粛に受け止め、コンプライアンス体制の見直し、教育・研修および法務監査の実施等の再発防止措置を講じております。また、今後とも、内部統制やコーポレート・ガバナンスの強化を図っていくことで、ステークホルダーの皆さまからの信頼回復に努めてまいります。

### ●事件の経緯

2007年6月に、「新潟市発注建築・土木工事」に関して公正取引委員会より排除措置命令の審決を受け、「防衛施設庁発注建築・土木工事」に関して排除措置命令および課徴金納付命令を受けました。

また、11月には、「名古屋市発注地下鉄工事」に関して排除措置命令および課徴金納付命令を受けました。



法令講習会の様子

### ●再発防止措置

2007年11月27日

- ・企業行動憲章、行動規範を改定(独禁法遵守の趣旨等を追加)
- ・企業倫理ヘルプラインの見直し(顧問弁護士への窓口開設)
- ・上記について、取締役会にて決議

2008年1月

- ・すべての役員・社員に小冊子「戸田建設のコンプライアンス<第2版>」を配布、その際に受領書を回収

2008年1月～2月

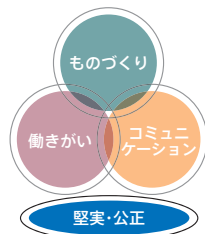
- ・すべての役員・社員を対象に、独禁法研修を実施(eラーニングにて実施)

2008年4月

- ・関係部門に、独禁法遵守マニュアルを配布
- ・執行役員規程を改定(独禁法遵守の趣旨を追加)
- ・就業規則を改定(独禁法遵守の趣旨を追加)

2008年4月～

- ・全支店にて、法令講習会(独禁法研修)を実施(2005年度より継続的に実施)
- ・全支店を対象に、法務部による法務監査を実施



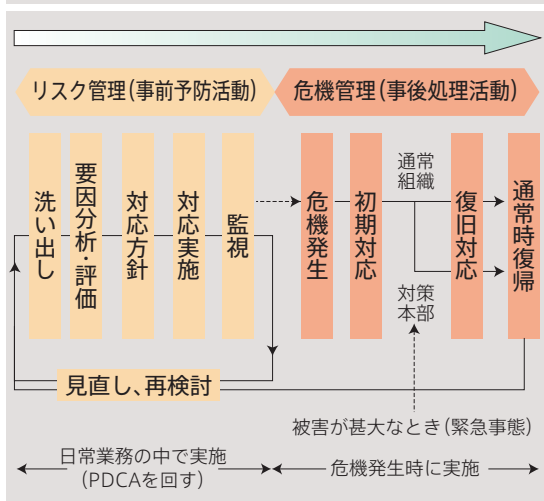
## リスク管理、内部統制への取り組み

リスク管理を充実させ、業務の安全性と効率性を高めるとともに、次の段階に果敢に挑んでいく企業風土を醸成しています。

### 全社的リスク管理体制の構築

「会社を守り、社会・お客さまに被害を与えない」という考えのもと、2006年に「危機管理基本マニュアル」を制定し、リスク管理における基本手続き、危機発生時の報告・対応フローの標準化を図りました。2007年度からは、リスク管理担当(部門)を本社・各支店に定めるなど、全社的リスク管理体制の構築を図っています。

#### リスク管理と危機管理の体系図



### BCP(事業継続計画)への取り組み

大規模地震災害時における建設会社が担う社会的役割は大きく、当社ではBCPを2006年に策定しました。同時期に、社員安否確認システムや災害復旧支援システムなどのしくみも整備しました。2007年末に、このBCPをもとに、最大震度6強～7クラスの地震が発生したことを想定した総合震災訓練が実施され、本社および3支店(名古屋・大阪・広島)の役員・社員約1,000名が参加しました。また11月には本社・東京支店を対象に、一斉帰宅訓練を実施しました。



総合震災訓練の様子



一斉帰宅訓練の様子

#### リスクと危機

当社では、リスクを「役員・社員または会社の経営資源に損害をもたらすと思われる事象の発生要因」、危機を「リスクが顕在化し、役員・社員または会社の経営資源に損害が生じた、またはその恐れのある状況」と定義している。

#### 内部統制

不正や間違いが起こらないように、社内をコントロールする体制やしきみを整備し、運用すること。体制やしきみそのものを指すこともある。

#### BCP(事業継続計画)

企業が災害などにより被害を受けた場合に重要な業務が中断しない、または中断しても短い期間で再開できるように準備をおこなうこと。Business Continuity Planの略。

### 内部統制システムの整備

当社では、2006年3月に「内部統制システム構築の基本方針」の取締役会決議をおこない、これに基づき、経営基盤のさらなる強化に取り組んでいます。

また、金融商品取引法における「財務報告に係る内部統制」については、2007年2月に設置した内部統制推進室を中心に、整備、運用をおこない、監査部によるモニタリングを通じて、問題点の抽出と改善を実施しています。

## 社員の声

当社には長年にわたって整備し、修正をおこなってきたルールやしきみがあります。これらをベースに、不足しているものを見直すことで、内部統制を整備、運用しています。

大切なことは、決められたルールやしきみを、倫理観を持って誠実に運用していくことと、不備があれば改善していくこと、この二つを地道に継続していくことと考えています。

内部監査の機会も活用して、業務実施部門の担当者より良いコミュニケーションをとりながら、運用、改善していきたいと思っています。



水上 修

本社 内部統制推進室  
課長

## 建築を通じて企業理念を発信する

21世紀の生産施設のモデルとなる環境性能と事業継続性を目指して、戸田建設は世界最大規模の医療用内視鏡の生産拠点となる「会津オリンパス新工場」の設計に着手しました。



## 世界をリードする医療用内視鏡の生産拠点 多彩な技術提案を投入した「会津オリンパス新工場」

### 報告者



薄倉 修

東北支店 建築設計室  
主管

1990年入社。1993年東北支店配属。今回のプロジェクトは、支店における設計施工としては最大規模であり、2009年2月竣工に向けて本社・支店各部門が一体となり進めている。

### 企業の顔となる工場の未来像

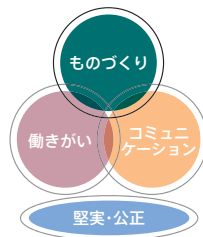
医療用内視鏡は、大腸をはじめ消化器を直接観察し、病変の早期発見・治療に大きな役割を果たしています。また、小腸用カプセル内視鏡など、新技術の開発を進めるオリンパスグループにとって、内視鏡は世界の約70%という高い市場シェアを持つ重要な事業部門です。その生産拠点となる新工場には、「価値創造企業」を掲げるオリンパスの経営理念をカタチとして世界に発信する、新しい提案が求められました。



### 印象的で人に優しい外観 既存工場の利便性も考慮

今回のプロジェクトは既存工場を稼働させながら工場を新設するものです。また内視鏡におけるリーディングカンパニーにふさわしいクリーンな先進性や人に優しい安心感を表現するとともに、精密機器の生産施設として今後のモデルケースとなるような環境性能や災害対策を盛り込みました。全体としては、国道に面する形で存在感をアピールする配置計画を採用し、既存工場へのアクセスを確保する貫通道路を

設置して事業の継続性を確保。国道側からの外観デザインは、全体をゲートとしてとらえる、シンプルで印象的なファサードとし、環境との調和を図っています。



## DATA

会津盆地の東南に位置し、交通の利便性、自然環境に恵まれた立地条件のもと、工場機能と同時に、環境配慮設計や震災対策が大きなテーマとなっているプロジェクト。

### 【工事概要】

所在地: 福島県会津若松市

発注者: オリナス メディカルシステムズ(株)

施工: 戸田建設(株)

構造: S造、地上5階

敷地面積: 47,037m<sup>2</sup>

建築面積: 5,949m<sup>2</sup>(1期)

延床面積: 22,503m<sup>2</sup>(1期)

用途: 工場

工期: 2008年3月~2009年2月(1期)

### 持続可能性に寄与する 環境配慮設計と免震構造

環境面では、お客さまから「既存エネルギー水準での拡張計画によるCO<sub>2</sub>排出量を2,000トン削減する」という明確な目標値が提示されました。水蓄熱、太陽光発電・集熱、クールヒートトレンチなどの先端技術と空調熱源システムの見直しや照明器具の省エネなどの改良を加えたトータルバランスで目標を達成。特に壁面の太陽光発電のパネルと発光ダイオード(LED)を使用したロゴサインは、環境先進企業としてのデザイン的なメッセージとなっています。

一方、地震対策では免震構造を提案し、オリナスグループの工場施設としては初めて採用されました。



免震装置

### 【お客さまの声】

#### 職場の声を反映した 人と環境に優しい生産施設

新工場の設計会議には、従業員160名で編成された約20のワーキンググループの代表者も参加しました。そして、生産部門の機能性や職場の快適性をはじめ、トイレや休憩室、食堂といったアメニティー施設に対する希望など多岐にわたり、設計・施工者と利用者の意見を交換し、ひとつのものを共に作り上げる喜びを実感するものとなりました。

職場の声を反映した、働く人にも、環境にも優しい生産施設のモデルになることを期待し、設計・施工者と一緒に新しい施設の建設を進めていきたいと考えています。

オリナス メディカルシステムズ(株)  
製造サービス本部  
製造サービス企画部 企画管理グループ  
チームリーダー

田中 亮一 氏



#### 水蓄熱

割安な夜間電力で熱源機を運転し、蓄熱槽に熱を蓄えて昼間の空調等にそのエネルギーを使うシステム。本工場は2,000トンの水蓄熱塔が設置される。

#### 太陽光発電

太陽電池を用いて太陽光を直接電気に変換する装置。建物屋上、南壁面に導入。

#### 太陽光集熱

建物屋上に太陽光集熱パネルを設置し、太陽の日射エネルギーを温水として取り出し、建物の給湯に利用するシステム。

#### クールヒートトレンチ

地下ピットを通して外気を導入し、夏期は外気が冷やされ、冬期は温められることで、空調負荷の低減に利用するシステム。

## 生産施設に適した戸田式免震構法(TO-HIS II構法)

会津オリナス新工場では、生産施設のBCPの観点から免震構造を提案しました。戸田式免震構法(TO-HIS構法)は、免震装置に、天然ゴム系積層ゴムとオイルダンパー、および独自に開発した弾性すべり支承を用いることで、建物を長周期化し、地震時の揺れを大幅に低減することができる、という特長があります。

さらに今回は、小地震、大地震の揺れ以外に、生産施設に特有の、精密機器が嫌う微振動を小さく抑えるため、これまでのTO-HIS構法に、剛すべり支承をバランス良く組み合わせ、TO-HIS II構法を開発、適用し、幅広い揺れにも対応しています。

#### 荷重を支持



天然ゴム系積層ゴム

#### 揺れを低減



オイルダンパー

#### 荷重を支持・揺れを低減



弾性すべり支承

#### 微振動を低減



剛すべり支承

## 地域住民の生活環境に配慮した立体高架橋工事

2007年10月15日、渋滞が慢性化していた東京都葛飾区のとつみ橋交差点に、延長818mの高架橋「新小岩陸橋」がわずか6カ月の工期で完成。地域住民の生活に配慮した先進技術の「すいすいMOP工法」が、工事中の渋滞を緩和しながら、工期の大幅な短縮を実現しました。

## 工期短縮と、工事中の渋滞緩和の両立を 先進技術で実現させた、「とつみ橋交差点立体化工事」

報告者



小泉 克志

東京支店 土木工事業部  
作業所長

入社以来、東京支店土木工事業部において道路工事等、都内を中心にさまざまな工事に携わる。担当した現場は、沖縄自動車道、館山自動車道、首都高速道路など。

### 地域住民の生活を尊重した 都市環境と共生する工事を

東京と千葉を結ぶ幹線道路である蔵前橋通りと、平和橋通りが交差するとつみ橋交差点は、都内有数の渋滞発生個所でした。付近の新小岩駅を利用する歩行者や自転車も多く、早急な対策が切望されていた場所です。工事中も昼間は片側2車線の車道と歩道を確保しながら、現地の非常に狭い施工ヤード内で高架橋をつくるものでした。道を使う車のみならず、道とともに生活する方々の不自由さも最小限に抑える工事を目指すことが、私たちの挑戦でした。

### 設計から施工に至る総合力と 画期的な技術で工期を短縮

東京都は、この工事に設計・施工一括発注（技術提案型総合評価方式）での入札を土木工事で初採用しました。都の最大の要望は、渋滞、騒音、振動など、周辺住民の生

活環境に直結する工期の短縮です。立体高架橋の開通までの現場施工日数の限度は169日という異例の短さでしたが、当社はさらに60日短い109日で施工する提案をし、落札しました。そのポイントとなったのが、当社が三菱重工鉄構エンジニアリング（株）と共同開発した「すいすいMOP工法」です。この技術を活用することで、工期の大幅な短縮が実現しました。

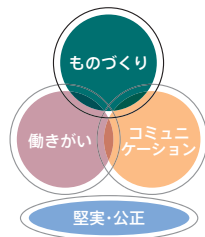


工事前のとつみ橋  
交差点付近



工事後のとつみ橋交差点





## DATA

慢性的な交通渋滞解消のために、工期の大幅短縮、工事中の渋滞緩和で社会便益の大幅向上、周辺住民に親しまれる公共インフラ整備手法の実現を目指した交差点立体化工事。

### 【工事概要】

所在地:東京都葛飾区(蔵前通り)  
 発注者:東京都  
 施工:三菱・戸田興業種JV  
 工事内容:たつみ橋交差点付近の立体化工事  
 工事規模:延長818m(立体部557m、幅員9m)  
 工期:2006年10月～2007年10月  
 (高架橋現地施工期間:2007年5月～2007年10月)

### 工事中でも地域や 周辺環境との調和に配慮

たつみ橋交差点では、工事中も昼間は片側2車線の車道と右折車線の確保を実現。工事中の渋滞を最大限緩和できました。また、周辺の住民の方々に工事内容のご理解をいただくために、現地での「インフォメーションセンター」やホームページでも情報を公開しました。見る見るうちにできていく高架橋を見上げて、驚かれる方も少なくありませんでした。

設計面でも、橋梁部に鋼床版を採用し、高架橋の高さをコンクリート床版仕様よりも約20cm低く抑え、視覚的な圧迫感を緩和して、周辺景観と調和した立体交差を実現しました。



現地のインフォメーションセンター

### 発注者からも 地元の方々からも高評価

発注者である東京都は、今回の立体化工事における工期短縮と工事中の渋滞緩和を高く評価、私たちのトータルなソリューション力が認められたといえます。住民の方々からは「長時間の通行止めも一軒の立ち退きもなく、これほどの大工事が6カ月で完成するとは」という驚きの声もいただき、2007年10月13日に開催した「歩こう会」には、予想を上回る6,000名以上の方々が参加しました。多くのスタッフが計画から完成まで携わり、地元と完成の喜びを分かち合える工事となり、かけがえない体験となりました。



「歩こう会」の様子

#### 技術提案型総合評価方式

工期やコストの短縮、困難な条件下での高い工事品質などが要求される工事において、民間が有する技術力を有効活用することを目的とした入札方式。技術面と価格面が総合評価される。

#### 橋梁(きょうりょう)

橋のことで、道路・鉄道・水路などが障害物等の上空を通過するための架空構造物を総称したものの、橋脚と橋桁と床版で構成。

#### 橋脚(きょうきゃく)

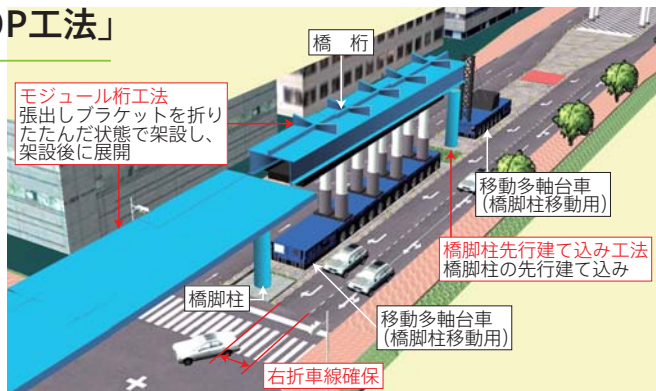
橋を支える垂直の柱。橋脚柱ともいう。

#### 橋桁(はしげた)

床版を支える水平の部材。橋脚と橋脚の間に渡す。今回はこの橋桁を折りたたむことで施工ヤードをコンパクト化し、工事中の渋滞緩和に寄与した。

### 「平成19年度土木学会賞技術開発賞」を受賞「すいすいMOP工法」

橋桁を折りたたむことにより施工ヤードをコンパクト化する「モジュール桁工法」と橋脚柱を早期に建て込むことにより上部工と下部工の同時施工を可能にする「橋脚柱先行建て込み工法」を主要技術とする「すいすいMOP工法」。今回の「たつみ橋交差点立体化工事」を含め2件の施工実績より、交差点立体化工事において大幅な工期短縮と工事中の渋滞緩和、恒久的な渋滞解消を実現し、社会に貢献したことが土木学会賞技術開発賞に値するものと認められました。



「すいすいMOP工法」概念図

# ものづくりを通じて社会の発展に貢献する ～最良の品質を皆さまに～

## 安心・安全をお届けする品質管理体制

「品質・工期・安全に最善をつくす」を社是に掲げ、ものづくりのプロセス全体を通じて、安心・安全な建設物の提供に向けた活動を推進しています。

### ISO

国際標準化機構のこと。  
International Organization for  
Standardizationの略。

### 品質マネジメントシステム

品質に関して組織を指揮し、管理していくためのしくみ。  
(QMS: Quality Management System)

### PDCA

Plan(計画)、Do(実行)、Check(確認)、Act(改善)の頭文字を表したもので、あらゆる業務・活動に適用できる管理のサイクルを示したものの、デミングサークル。

### 品質方針と品質目標

「戸田建設は他社よりも高い品質を提供する」を品質方針に掲げ、不具合の未然防止を図りながら、QMSによる品質保証活動を展開しています。

#### 品質方針と各部門の品質目標

##### 品質方針

戸田建設は他社よりも高い品質を提供する

##### 品質目標

###### 建築部門

品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善し、もの造りの原点に還った建築物の設計・施工を実践することによって、顧客満足の上昇を図る。

###### 土木部門

品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善し、コンクリートを始めとする土木構造物の要求品質性能を確保し提供することによって、顧客満足の上昇を図る。

###### 管理部門

建築物および土木構造物の設計・施工に関する事務を効果的かつ効率的に処理する。

### 品質マネジメントシステムの概要

1994年より、従来の品質保証のしくみをベースにしたQMSの構築に取り組み、1995年、東京支店建築部門および本社建築設計統轄部が国内の建設業で初めて国際標準規格ISO9001の認証を取得しました。

2004年12月には、本社も含めた全社の建築・土木・管理本部を統合してISO9001の認証を取得しました。

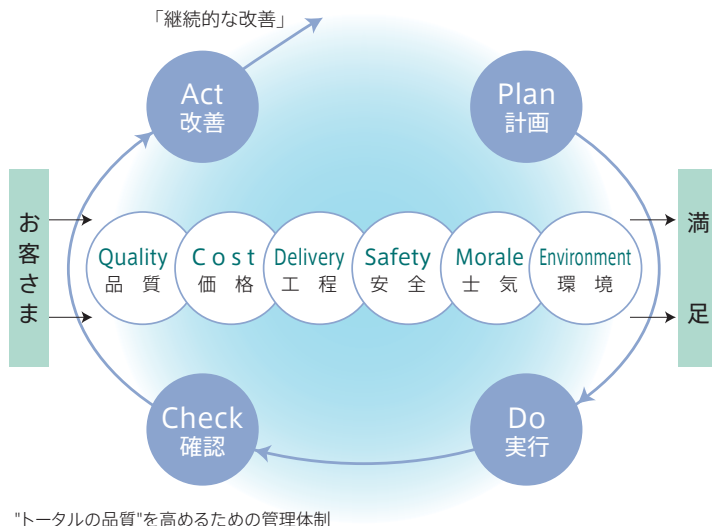
### 品質マネジメントシステムによる品質保証活動

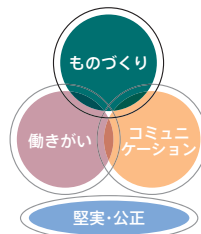
当社のQMSはPDCAのサイクルに沿った8つのプロセス(運営管理、資源運用、営業、設計、施工、保全、評価分析、改善)で成り立っています。各プロセスは相互に関連し、それぞれの業務・活動を通じてお客さまに満足いただける「ものづくり」を実践し、製品実現における4つのプロセス(営業、設計、施工、保全)では、本社・支店と作業所が、会議体や検査などにより連携を図りながら製品の実現に向けた活動をおこなっています。

## 戸田建設の「品質」への想い

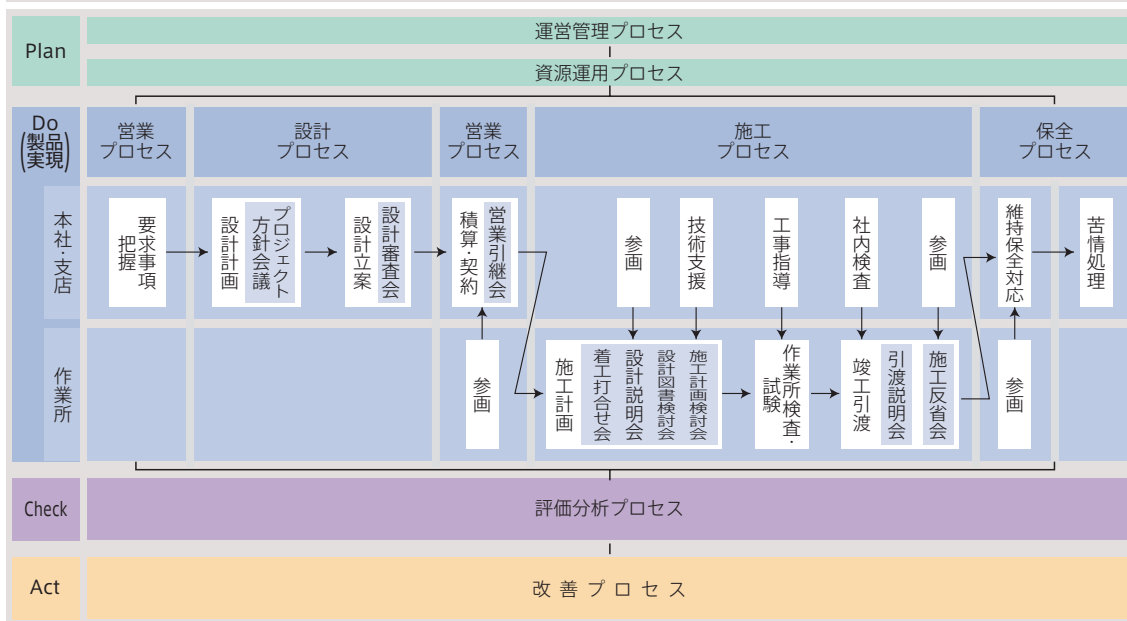
最良の品質をお届けし、お客さまにご満足いただく。そのために、すべての企業活動の成果を「トータルの品質」の向上に結実させる。これが創業以来変わらぬ、当社の想いであり、当社ならではの品質を力強く支えています。

また、当社では品質看板(Qマーク)と環境看板(Eマーク)をすべての作業所に掲げることで、社員一人ひとりがこの想いを、日々追求していく姿勢を明確にしています。





## 品質マネジメントシステム



## 製品

QMS運用上のプロセスの結果。当社においては、建築物、土木構造物およびプレキャストコンクリートを示す。

## 品質管理ツールの活用

施工プロセスにおける品質管理の徹底を図るために、品質管理ツールを活用し、また、ポスター掲示などによる啓発活動もおこなっています。

### 品質管理ツール

#### ①品質ポケットブック(建築)

躯体工事の施工品質管理表とチェックシートをポケットサイズのファイルにとじ込み、常に携帯して、現場での品質チェックおよび工程内検査に活用しています。

#### ②品質管理ブック(土木)

品質管理ブックを用いて工種別のチェックリストを作成し、現場での品質チェックおよび工程内検査に活用しています。  
〔山岳トンネル、シールドトンネル、推進、RC構造物、ダム、アスファルト舗装 他〕

#### ③建物用途別品質管理システム(建築)

致命的なクレームの発生を防止し、当社の社会的信用を維持(リスク回避)するため、建物用途別品質管理システムを用いて建物用途に応じた重点管理項目を明確にし、施工状態や工事進捗状況の確認をおこなっています。

〔1.住宅施設(マンション)、2.生産施設(工場)、3.流通施設(倉庫・配送センター)、4.医療施設(病院)、5.高齢者施設(特別養護老人ホーム)、6.教育施設(学校)、7.宿泊施設(ホテル)〕



作業所検査(配筋検査)の様子

## 社員の声

入社以来、下水処理場をはじめとした土木構造物の施工に携わってきました。時には過酷な自然条件への対処や、こちらの想いがうまく伝わらず協力会社の方々と衝突することもありましたが、その都度初心に帰り信念を貫き通した結果、想いがこもった構造物となり、それぞれに誇りを持っています。これからも良いものを提供し、より良い品質の社会基盤を築いて社会に貢献できるよう努めていくつもりです。



**木村 拓史**  
名古屋支店  
土木工部

# 良質な建設物を次代へ

「良いものを安全に長く使う」「愛用されてきたものに新しい価値を吹き込む」  
こうしたお客さまのニーズにお応えする技術を開発・適用しています。

## 免震

建物全体を柔らかい免震装置の上に乗せることで、建物が受ける地震エネルギーを小さくする技術。

## 制震(振)

地震エネルギーや振動を吸収し、揺れを抑えることで、柱や梁の損傷を軽減する技術。

## 超高層建築における取り組み

近年、都市部では超高層建築物が数多く建設されています。当社では、高品質で「安心・安全・快適・フレキシブル・長寿命」を実現した高性能超高層集合住宅「Super HRCシステム」を開発し、50階を超えるわが国トップクラスの超高層住宅に適用しています。

また、さらなる高層化を可能にした鉄筋内蔵型鋼管コンクリート構造(S-CFT)を開発し、丸の内トラストタワー本館新築工事(東京都千代田区)に適用しています。さらに高品質で「安心・安全・快適」の実現のため、超高層免震、デュアル制震、ハイブリッド制振、材料の高強度化、プレキャスト化などの技術・工法も開発しています。



丸の内トラストタワー(完成パース、右が本館)

## ●戸田式免震構法(TO-HIS構法)

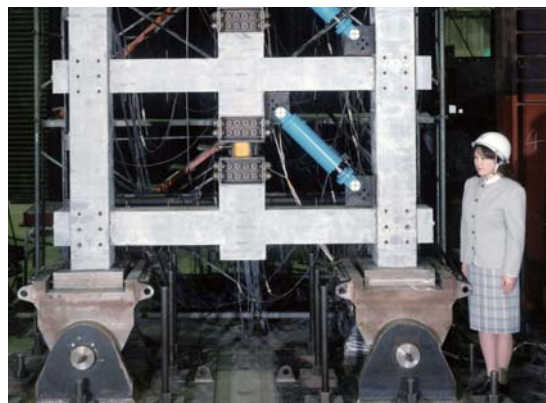
積層ゴム支承と弾性すべり支承を併用することにより、高さ60mを越える高層建築物の免震構造が可能となりました。また軟弱地盤上の建物においても適用可能です。



弾性すべり支承設置状況

## ●デュアル制震技術(TO-DHD工法)

特性の異なる制震デバイスを組み合わせ、両者の長所をともに活かした効率的な制震技術。同デバイスの採用で、強風から大地震まで幅広い揺れを低減することが可能となります。



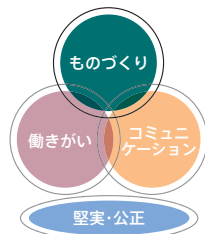
デュアル制震装置

## ●高強度コンクリート

フレキシブルな住まいの実現には、柱と柱の間隔を大きくすることになりますが、柱の支える床面積が増加し、柱に作用する荷重が増大するため、材料の高強度化が求められます。晴海三丁目西地区(再)A1街区住宅建設その他工事(東京都中央区)では、設計基準強度 $F_c130\text{N/mm}^2$ の超高強度コンクリートを採用しています。なお、2008年1月には、 $F_c150\text{N/mm}^2$ までの国土交通大臣の材料認定を取得しました。



超高強度コンクリートの打設状況(1階柱)



## 既存建造物の長寿命化を図る技術の開発

既存の社会資本施設を「大切に、長く」供用していくことが求められる中で、既設建造物の長寿命化を図るためのリニューアル工事が注目されています。

当社は、(株)エービーシー商会と共同で、コンクリート建造物の長寿命化技術である「高耐候性ひび割れ追従ウレタン被覆工法」を開発しました。新しく開発した特殊ポリウレタン材料を使用し、道路・鉄道施設などの乾燥収縮や振動によりひび割れが発生しやすい建造物の補修工事に効果を発揮します。現在、水路補修工事において試験施工を実施し、経年変化の性能確認試験中で、新潟県中越沖地震で被害を受けた高架橋の補修工事でも施工性を確認しました。



施工状況(水路補修工事)と補修された高架橋

## 歴史的建造物の保存

早稲田大学を象徴する大隈講堂は、建築学科の佐藤功一、佐藤武夫、内藤多仲らの設計、戸田組(現 戸田建設)の施工により1927年に竣工しました。当時最先端の耐震構造理論と音響設計を採り入れ、近代建築の名作の一つとして知られています。

今回、早稲田大学創立125周年記念事業の一環として、当社は、この歴史的建造物の保存再生工事をおこないました。意匠は継承し、機能は付加させるというコンセプトのもと、19万枚もの外壁タイルを、色合いや技法、材料となる土にまでこだわり復元して張り替えました。さらに耐震性能の向上、講堂などの設備・情報機能の更新を実施しました。なお、本改修工事後に、国の重要文化財に指定されています。



早稲田大学大隈講堂

### BCS賞(建築業協会賞)

1960年創設。建築業界では最も権威と伝統を持つとされる賞。「優秀な建築物をつくり出すためには、デザインだけでなく施工技術も重要であり、建築主(発注者)、設計者、施工者の三者による理解と協力が必要である」という理念のもと、国内の優良建築物を表彰するもの。

## 第49回 BCS賞 (2008年)

### 瞑想の森 市営斎場

(岐阜県各務原市)

岐阜県各務原市に造られた斎場です。おらかな稜線を描く里山を建物の背景とし、前面には溜め池の拡がる静かな敷地に対して、お別れの場の在り方とランドスケープとの調和が求められました。なめらかな凹凸を繰り返すRC自由曲面シェル造の大屋根は、厳しい施工品質管理のもとで実現されています。



発注者 各務原市  
設計 (株)伊東豊雄建築設計事務所  
施工 戸田建設(株)、他2社JV

### 聖学院大学礼拝堂

(埼玉県上尾市)

キリスト教を教育理念とする大学の礼拝堂・講堂および附属棟です。礼拝堂の内部空間は、キリスト教の教会堂の源流へとつながる囲み型の平面を持ち、白い幕屋のような天井が全体を覆っています。柔らかい自然光が間接的に室内に導かれ、穏やかな雰囲気の中で会衆が一つに包まれるものとなっています。



発注者 (学)聖学院  
設計 (有)香山壽夫建築研究所  
施工 戸田建設(株)

## 地震災害への備え

地震災害は広範囲の人々や建物に多大な被害を与え、生活基盤に大きな影響を与えます。戸田建設では多くの保有技術を活かし、安心・安全の向上に取り組んでいます。

### 耐震ソリューションシステム

当社では、リスク評価から地震PMLを算定し、最適な補強工法を選定する「耐震ソリューションシステム」を通じて、お客さまにとって最適な耐震補強計画を提案している。

### 地震PML

建物の耐震性を、想定される被害金額で評価した指標。地震時予想最大損失率。Probable Maximum Lossの略。

### 地震情報システム

当社では、地盤・建物などの詳細なデータにもとづいて、建物・機器の地震時の振動を高精度に予測し、気象庁から提供される緊急地震速報を受けると瞬時に、重要な機器等の停止や緊急点検の必要性を判断して事業中断を防ぐシステムを実用化している。

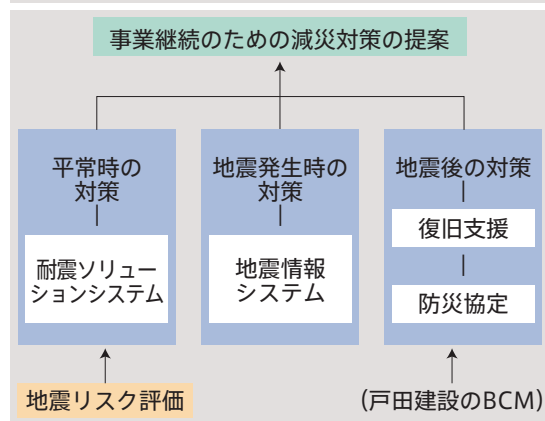
### BCM

事業継続マネジメント。企業が不測の事態によって生じる事業中断リスクについて、事業戦略などにもとづき、事業の継続性に必要な対応をおこなう経営管理のしくみ。Business Continuity Managementの略。

## 事業継続への支援

地震災害時に、お客さまが事業継続するための事業継続支援システムを整備しています。これは、建物の地震被害を最小限に抑える「耐震ソリューションシステム」、機器などの復旧速度を上げる「地震情報システム」、そして被災直後の復旧支援のための「戸田建設自身のBCM」から構成されています。

### 事業継続支援のしくみ



## UFCブロック耐震壁の開発と実用化

『鋼管コッター工法<sup>®</sup>』は、低振動・低騒音・少粉じん、建物を使用しながら耐震補強工事をおこなうことができる工法です。当社では、学校や病院などの公共施設の耐震化の促進に貢献できるように、技術のオープン化をおこなっています。

この『鋼管コッター工法<sup>®</sup>』を発展させ、意匠性、通風および採光に優れた超高強度繊維補強コンクリート(UFC)ブロックを用いた耐震補強工法を開発し、実用化を果たしています。



UFCブロック耐震壁の施工例

## 免震レトロフィット工法による耐震改修

当社では、既存の建物の外観や基本的な骨組みを残しながら、耐震性能を高める「免震レトロフィット工法」によって、歴史的建造物等の改修工事をおこなっています。現在、愛知県庁本庁舎(1938年竣工、戸田組施工)では、この工法を採用した国内最大規模の耐震改修工事をおこなっています。

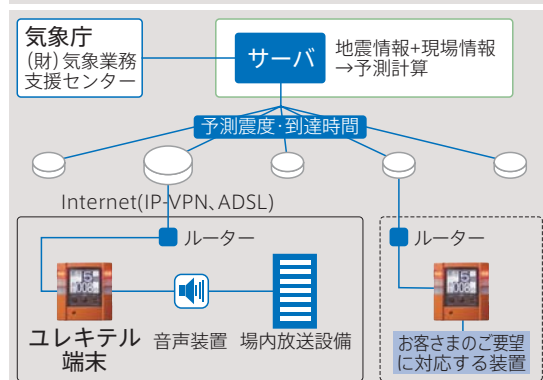


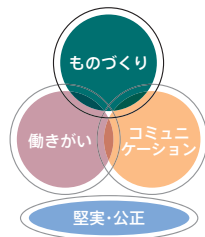
免震レトロフィット(愛知県庁本庁舎)

## 現場地震速報システム『ユレキテル<sup>®</sup>』の導入

「現場と作業員の安全は、お客さまや地域のすばやい復旧へつながる」という基本姿勢のもと、当社の作業所や社有施設に、現場地震速報システム『ユレキテル<sup>®</sup>』を導入し、大きな揺れが来る前の災害対応を可能にしました。また、『ユレキテル<sup>®</sup>』は当社の作業所だけでなく、サッポロビール(株)静岡工場をはじめとする生産施設などへも導入されています。

### ユレキテル<sup>®</sup>のしくみ





## お客さま満足度向上への取り組み

お客さまの声を聞くこと、またお客さまの立場になって物事を考えることを経営の基本とし、CS活動に取り組んでいます。

### CS活動の推進

社員一人ひとりが「顧客第一」を認識し、高品質の建築物の提供とサービスに努めることが当社の考えるCS活動の原点です。

2004年にCS推進部を設置し、下記の業務を通じて、顧客重視経営を推進しています。

#### ①アフターケアの窓口

迅速で適切なメンテナンス対応、建物カルテの整備

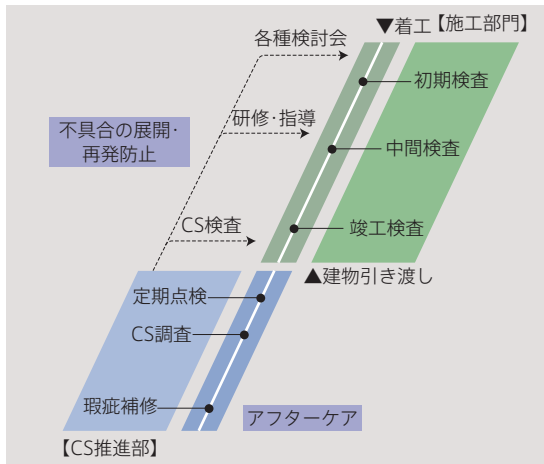
#### ②施工部門のカウンターパート(品質確保の両輪)

CS検査の実施、不具合の展開および再発防止

#### ③「顧客第一」をモットーとする企業風土の醸成

お客さまの声の集約、BNFの推進

### 施工部門のカウンターパート



### リニューアル・ソリューションの提供

建物は完成後徐々に物理的な劣化が始まります。地球環境や地域の環境保全、資源の有効活用、そして経済性の追求の面からも、建物の運用管理はこれまで以上に重要度を増しています。当社は建物維持保全のパートナーとして、調査・診断から企画・提案、設計、施工、保全にわたるトータル・リニューアル・ソリューションを提供しています。

#### トータル・リニューアル・ソリューション

- 調査診断**
  - 現状の建物状態を部位や機能、設備部材に至るまで最新技術により正確に診断・評価します。
- 企画提案**
  - 企画段階からリニューアル後の経営効率を視野に入れて、新たな環境の変化に対応するプランを提案します。
- 設計**
  - お客さまと綿密な打ち合わせ、話し合いにもとづき、ご要望を反映し、シミュレーションしながら迅速に設計を進めます。
- 施工**
  - 最新のリニューアル技術、徹底した安全管理のもと、居ながら施工はもちろん、短期間で高品質な施工を実現します。
- 保全**
  - 日常の維持保全活動をサポートするシステムや、建物の補修状況を記録した建物カルテによる保全情報を保管し、アフター対応に備えます。

#### CS

Customer Satisfaction(顧客満足)の略。

#### CS検査

施工部門に対して第三者の立場で実施する社内検査。お客さまの視点、不具合防止の観点で検査を実施する。

#### BNF

不具合など、悪い情報こそ迅速に社内でも共有し、お客さまへの対応、再発防止に活かす活動。Bad News Firstの略。

#### 東京建築賞

(社)東京都建築士事務所協会(東事協)の主催により、「魅力ある建築と都市の建設に貢献し、あわせて建築技術の進歩並びに地域環境と生活・文化の向上に寄与すること」を目的に創設された賞。「60周年記念特別賞」は東事協創立60周年を記念して設けられた賞。

#### 医療福祉建築賞

1991年創設、主催は(社)日本医療福祉建築協会(JIHA)。デザインだけでなく、利用者の快適性や、スタッフの使い勝手といった視点もあわせ、「器と中味」の一体性の観点から評価し、表彰するもの。

## 第34回 東京建築賞 60周年記念特別賞

### ■ 大網白里アリーナ

(千葉県大網白里町)

町民の健康増進やスポーツ、レクリエーション活動を目的とした多目的施設です。メインアリーナ、サブアリーナ、武道場、トレーニング室棟で構成されており、メインアリーナには、舞台機構や電動稼働椅子も備わっています。大空間を構成している屋根鉄骨はタイロッドを用いた張弦梁となっています。



発注者 大網白里町  
設計 (株)久米設計  
施工 戸田建設(株)

## 医療福祉建築賞 2007

### ■ 東海大学医学部付属病院

(神奈川県伊勢原市)

今後の医療環境の変化を見すえ、超急性期に特化した全く新しいタイプの病院です。速やかで質の高い診断と治療を目指し、エビデンスを重視した設計・施工をおこなっています。高度救命救急センターも併設され、戸田式免震構法採用の建物は災害拠点病院として十分機能するものと確信しています。



発注者 (学)東海大学  
設計 戸田建設(株)  
施工 戸田建設(株)、他1社JV

# ものづくりを通じて社会の発展に貢献する ～地球環境を大切に～

## 環境理念と推進体制

地球環境の創造的再生を目指して、1994年に地球環境憲章を制定。  
環境リスク低減に向けた活動とより良い環境創造に向けた活動に取り組んでいます。

### 環境マネジメントシステム

企業等が自主的に環境問題への取り組みを推進するにあたり環境方針や目標を自ら設定して、これらの達成に向けて取り組んでいくことを支援するしくみ。(EMS: Environmental Management System)

### 更新審査

ISO14001認証登録後、定期的実施される審査機関による審査。審査頻度は3年に1回。また、更新審査まで、半年または1年ごとにおこなう維持審査をサーベイランスという。

### CASBEE

建築物総合環境性能評価システムのごとで、通称「キャスビー」と呼ばれる。建物の環境側面を総合的に評価し、環境に対してどの程度優しいかを測る物差しとして開発された評価ツール。Sランクを最上位として5段階で格付け。

### 戸田建設地球環境憲章

#### ー地球環境の創造的再生を目指すー

地球環境問題は、私たち人類にとり共通の課題として強く認識されるようになってきました。顕在化してきた地球環境問題は、これまでの価値観や社会システム、ライフスタイルの延長線上には人類の未来は無いことを示した警鐘といえます。

当社ではかねてより、「人間と環境」のあり方を大切に参りました。地球環境問題に対する取り組みは、この考え方をさらに深め、人間の様々な活動と環境との調和を図りながら地球環境を甦らせる、地球環境の創造的再生を目指します。

このような基本的考え方に基づいた対策をあらゆる企業活動の中に積極的に取り込み、地球環境を円滑に次の世代に引き継げる「持続可能な開発」による未来社会作り貢献していきます。

1994年3月

### 環境方針

すべての事業活動に環境保全対策を積極的に取り入れ、地球環境の再生・保全に努め、ひいては、地球環境をより良い状態で次の世代に引き継いでいくことを目的とし、以下の活動を遂行する。

#### 1. 社会的要請への対応

あらゆる社会の要請に応えるため、技術的、経済的に可能な範囲で環境保全活動を実施するとともに、可能な限り情報の開示に努め、企業の社会的責任を果たしていく。

#### 2. 法規制等の順守

当社の環境側面に関連する法律や地方条例、並びに同意した行政の環境政策、業界の行動規範、及び地域協定等も順守する。

#### 3. 取り組み課題

##### 地球全体にかかわる環境課題

- 温室効果ガス発生抑制等による地球温暖化の防止
- フロン等の適正な処理によるオゾン層破壊の防止
- 型枠材の使用削減等による熱帯林減少の防止
- 汚染水等の適正な処理による海洋汚染の防止
- 希少動植物の保護等による生態系保全の推進

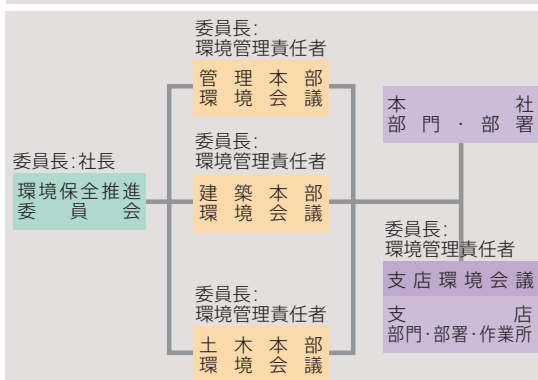
##### 地域における環境課題

- 建設公害の防止(騒音、振動、悪臭、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、地盤沈下)
- 建設廃棄物の発生抑制及びリサイクルの推進
- 有害物質や化学物質を含む材料等の使用削減

2007年7月1日

## 環境保全活動のための推進体制

### 環境保全活動推進体制



## 環境マネジメントシステムの状況

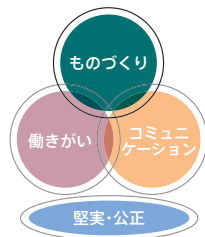
1998年にEMSの運用を開始し、1999年12月までに、全支店でISO14001の認証を取得しました。さらに、2005年2月、本社を含む全社統合EMSの認証を取得しています。

2007年9月、(財)建材試験センターによる第3回更新審査を受審しました。

### 第3回更新審査の概要

実施期間: 2007年9月10日から9月18日まで  
実施範囲: 本社および6支店  
指摘事項および観察事項: 重大な不適合 0件  
軽微な不適合 6件  
観察事項 6件





## 「地球温暖化防止」のために

地球温暖化防止のため、建物の設計段階から施工段階、そして運用・解体までのライフサイクルにわたる温室効果ガスの発生抑制に努めています。そのために、省エネルギーや省資源、ヒートアイランド現象抑制などを目的とした、環境配慮設計や施工方法の技術開発を進めています。また、本支店社屋や作業所での省電力活動など全社一丸となった取り組みを通して、地球温暖化防止に努めています。

### エコ・エアポートの設計

設計部門では、地球環境保全チェックシートを活用し、省エネルギー化、長寿命化、親自然化など、建物のライフサイクルでの環境負荷低減に向けた設計を推進するとともに、総合的な環境性能向上を目指して、CASBEE評価への取り組みを進めています。



静岡空港ターミナルビル

静岡空港ターミナルビルの設計コンペでは、お客さまの要請に応え、地球環境に配慮した"エコ・エアポート"を提案しました。省資源・省エネルギーに配慮した施設計画、雨水利用、シックハウス対策、自然エネルギー活用など、数多くの環境配慮設計をしています。建物運用段階でのCO<sub>2</sub>排出量を削減する空調熱源計画などの提案をはじめ、総合的な環境配慮設計を実現したことにより、CASBEE評価でSランクとなっています。

### モデル作業所での取り組み

施工部門では、モデル作業所を設定し、温暖化防止対策への取り組みを強化しています。建物種別や工事種別ごとに細かく削減目標を設定、チェックリストを活用し、その削減活動を徹底しています。



モデル作業所での排ガス測定

建設車両の整備点検では、アイドリング時の排ガス中の二酸化炭素、窒素酸化物などを測定し、自主管理基準値を超えた場合には再整備点検を実施しています。また、作業効率の向上や省力化による燃料および電力の削減を目的として、設計内容や施工方法の事前検討をおこなっています。今後は、このモデル作業所での活動実績を蓄積し、削減効果の大きい活動については、水平展開を徹底していきます。

### 環境配慮型集合住宅の技術開発

技術開発部門では、省エネルギー設計提案技術など、地球温暖化防止に寄与する環境技術の開発、整備、活用を進めています。



環境配慮型集合住宅の開発プロジェクトでは、「環境に優しく、健康で快適な住まいづくり」を目指して、5つの基本コンセプトに基づいたプロトタイプを提案しました。太陽光発電システムやクリーンエネルギーのほかに風や光の通り道となる「環境ポイド」の採用で、自然エネルギーを取り入れた心地良く穏やかな住空間を創り出しています。

5つの基本コンセプト

- ①日照、自然の光、風などの自然エネルギーの有効活用
- ②省エネルギーの推進による地球温暖化の抑制
- ③可変性、更新性に優れたSI住宅採用による建物長寿命化
- ④住宅の基本的な安全性・健康性・快適性の確保
- ⑤気候・風土や生態系に親和した、美しいまちづくり

### オフィスや家庭での取り組み

環境省が推進するキャンペーン「チーム・マイナス6%」に2005年から参加し、クールビズや冷暖房温度設定など、オフィスや家庭でできるさまざまな地球温暖化防止活動も全社的に定着化しています。

グリーン購入ネットワーク(GPN)が実施した「GPN500万人一斉行動/レジ袋、いりません!」にも参加、オフィスや家庭でのレジ袋削減活動を推奨しました。なお、当社のユニークな立体ポスター「リサイクル レジ袋 BOX」が、GPNの冊子のトピックスで紹介されました。

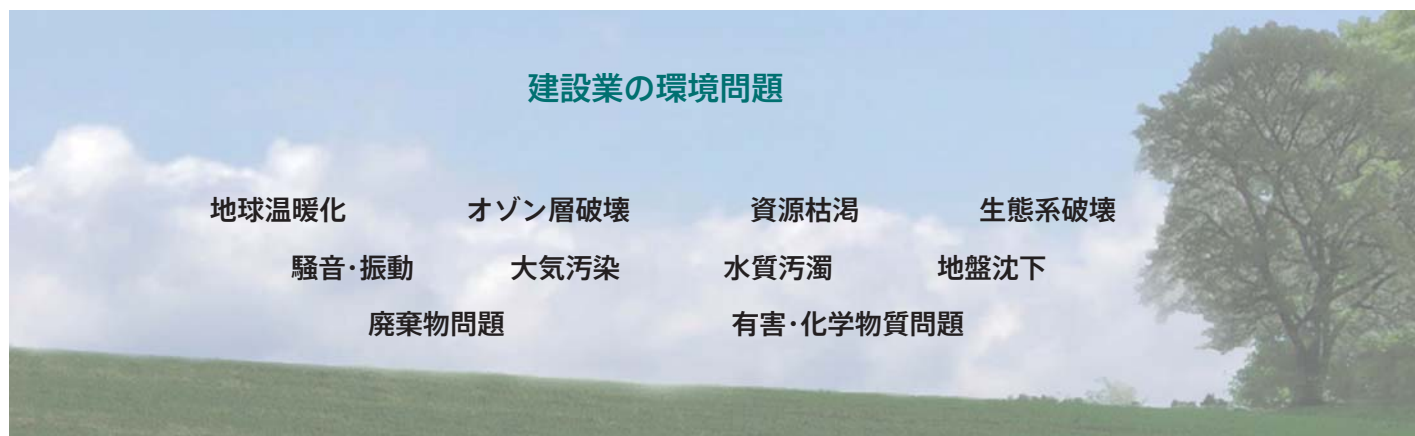
また、当社独自の「我が家の環境家計簿」を活用し、社員とその家族で地球温暖化防止活動を推進しています。



リサイクルレジ袋 BOX

# 事業活動による環境影響とその環境対策

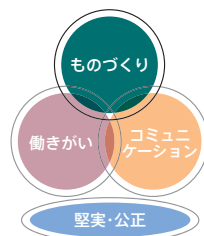
事業活動にかかわる主要な資源投入と環境負荷排出など環境影響の把握に努めています。  
そして、建設活動の各プロセスでの環境対策を充実し、環境影響を最小限に近づける努力を続けています。



資源投入 (主なインプット)	
<b>建設活動</b>	
生コンクリート	98.9万m <sup>3</sup>
鋼材(鉄筋・鉄骨)	13.9万トン
熱帯材型枠	106.2万m <sup>2</sup>
<b>オフィス活動</b>	
コピー用紙 (A4判換算)	2,852.2万枚
電力	272.4万kWh
ガス	86,433m <sup>3</sup>
水道	14,891m <sup>3</sup>

環境負荷排出 (主なアウトプット)	
<b>建設活動</b>	
建設廃棄物排出量	72.5万トン
建設発生土排出量	123.9万トン
二酸化炭素排出量	8.7万t-CO <sub>2</sub>
<b>オフィス活動</b>	
二酸化炭素排出量	2,594t-CO <sub>2</sub>

環境影響への主な対策		
建設活動のプロセス	<b>技術開発</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●省エネ提案技術</li> <li>●長寿命化技術</li> <li>●リサイクル技術</li> <li>●有害・化学物質対策技術</li> <li>●生態系保全技術</li> <li>●省資源化技術</li> <li>●近隣配慮型解体技術</li> <li>●汚染土壌浄化技術</li> </ul>
	<b>企画設計</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●環境配慮提案・設計</li> <li>●自然環境との共生</li> <li>●長寿命化設計</li> <li>●グリーン調達の推進</li> <li>●CASBEE評価提案</li> <li>●省エネルギー設計</li> <li>●省資源化設計</li> <li>●シックハウス対策</li> </ul>
	<b>施工</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●建設副産物対策</li> <li>●生態系保全</li> <li>●有害・化学物質対策</li> <li>●地球温暖化防止対策</li> <li>●グリーン調達の推進</li> <li>●公害防止対策</li> </ul>
	<b>運用維持改修</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●省エネ診断</li> <li>●耐震診断</li> <li>●リニューアル診断</li> <li>●ESCO事業化提案</li> <li>●居ながら耐震補強工法</li> <li>●コンクリート健全度診断</li> </ul>
	<b>解体</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●近隣配慮型解体技術</li> <li>●建設副産物対策</li> <li>●騒音・振動対策</li> <li>●焼却施設解体技術</li> <li>●有害・化学物質対策</li> <li>●粉じん対策</li> </ul>
	<b>オフィス業務</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●省エネルギーの推進</li> <li>●一般廃棄物対策</li> <li>●資源の有効利用</li> <li>●グリーン購入の推進</li> </ul>



## 重点活動項目の活動結果と計画

戸田建設では、環境方針に具体的な取り組み課題を掲げ、全社重点活動項目を設定しています。そして、法のおよびその他の要求事項、著しい環境側面などを考慮して、各部門の環境目的・目標を策定しています。

2007年度 重点活動項目	2007年度 活動結果	評価
建設副産物・一般廃棄物の削減 建設廃棄物の最終処分率 目標 11%以下 一般廃棄物の分別の徹底 目標 オフィス内分別 5品目以上	建設廃棄物の最終処分率 実績 10.1% 一般廃棄物の分別の徹底 実績 オフィス内分別品目数5-12品目(平均7.23目)	◎ ◎
温室効果ガスの発生抑制 二酸化炭素排出量原単位(作業所) 目標 25.62t-CO <sub>2</sub> /億円以下	二酸化炭素排出量原単位(作業所) 実績 19.77t-CO <sub>2</sub> /億円	◎
グリーン調達 対象品目 建築工事26品目 土木工事8品目 設計部門グリーン調達目標値 5項目以上/1物件 事務用品グリーン調達目標品目数 12品目以上	実績(施工部門) 対象品目を積極的に採用 実績(設計部門) 6.7項目/1物件 実績(事務用品) 平均11.8品目	○ ◎ △
有害物質のリスク管理の徹底 有害物質、汚染土壌の適正処理、先行処理の徹底 有害物質の保管管理の徹底	アスベスト・ダイオキシン等の適正処理の徹底 PCB廃棄物の保管管理の徹底	○ ○
環境配慮事項の推進 環境配慮設計の推進 環境配慮項目 目標25項目以上 技術支援部門における環境配慮事項の推進 研究・開発部門における環境関連プロジェクトの推進	環境配慮設計の推進 実績 平均33.5項目 技術支援部門における環境配慮事項の推進 環境保全技術開発プロジェクトの推進	◎ ○ ○

※評価凡例:◎目標値達成 △目標値未達成 ○活動十分 □活動不十分

2008年度 重点活動項目(中長期目標)	2008年度 活動計画(目標)
建設副産物・一般廃棄物の削減 建設廃棄物の削減 目標:2010年度最終処分率を9%以下	建設廃棄物の最終処分率 目標 10.5%以下 一般廃棄物の分別の徹底 目標 オフィス内分別5品目以上
温室効果ガスの発生抑制 二酸化炭素排出量原単位の削減(2010年度/1990年度基準) 目標:二酸化炭素原単位を12%以上削減(25.1t-CO <sub>2</sub> /億円以下)	二酸化炭素総排出量原単位(作業所) 目標 25.45t-CO <sub>2</sub> /億円以下
グリーン調達の推進 対象品目のグリーン調達の推進	対象品目数 建築工事26品目 土木工事8品目 事務12品目
有害物質のリスク管理の徹底 工事および本支店施設における有害物質リスク管理の徹底	有害物質の適正処理 汚染土壌の適正処理
環境配慮事項の推進 研究・開発、設計、技術営業、技術支援における環境配慮事項の推進	環境配慮設計の推進(環境配慮項目 目標28項目以上) C A S B E Eへの対応(2,000㎡以上の建物) 技術支援部門における環境配慮事項の推進 研究・開発部門における環境関連プロジェクトの推進

# 建設副産物の削減対策と温室効果ガスの発生抑制

循環型社会形成に向け、建設廃棄物の発生抑制やリサイクル活動を推進し、作業所でのゼロエミッションに取り組むことにより、最終処分率の低減を図っています。また、二酸化炭素排出量の削減、省電力・省資源活動で地球温暖化防止に努めています。

## ゼロエミッション

作業所での3R活動を徹底することにより、建設廃棄物の最終処分量をゼロとすること。

## 最終処分率

建設廃棄物の最終処分量を全体発生量で除したものを、最終処分率とは、直接、最終処分場に埋立処理される量と中間処理後に埋立処分される量を合計したものを。

## 原単位(二酸化炭素排出量)

施工高1億円当たりの二酸化炭素排出量(t-CO<sub>2</sub>/億円)。建築、土木工事別に作業所への調査を実施し、調査期間の原単位を求め、それぞれの年間総排出量を推計。その合計が全体の二酸化炭素排出量で、その排出量を全体の施工高で除したものが、当社全体の原単位。

## 建設廃棄物排出量の削減と最終処分率の低減

建設廃棄物の排出量の削減に向けて、廃棄物となるものを工事現場に持ち込まない発生抑制に努めています。2007年度は72.5万トンで前年より2万トン減少しました。この5年間では、2004年度が20万トン以上少ない総排出量となっていますが、これはコンクリート塊が大量に発生する解体工事が少なかったことによるものです。

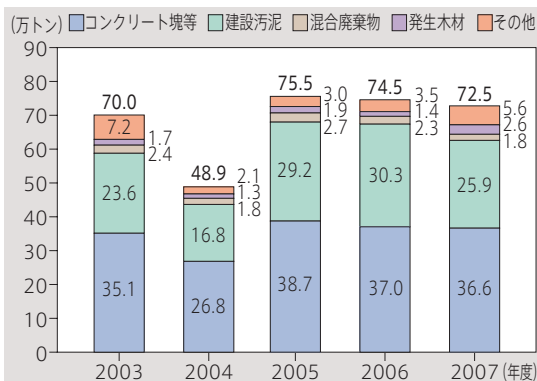
建設廃棄物の最終処分率の低減に向けて、発生した廃棄物の分別を徹底しています。2007年度は、10.1%と前年度よりも0.5ポイント低下しましたが、年度目標の10.5%はクリアしています。中長期目標の9.0%を目指して、さらに活動を推進していきます。

## 二酸化炭素排出量および原単位の削減

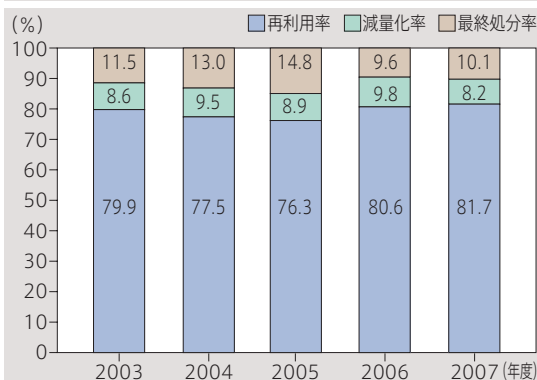
建設工事での二酸化炭素排出量は、作業所への調査で全体の排出量と原単位を推定しています。2007年度の排出量は86,888t-CO<sub>2</sub>、全体の原単位は19.77 t-CO<sub>2</sub>/億円となり、年度目標の25.62 t-CO<sub>2</sub>/億円を20%以上も低減しました。これは、建築・土木工事ともに、調査作業所での排出量が低減したことにより、特に掘削等の土工事の減少が大きく影響しています。また、省燃費運転等の指導による活動もその要因の一つとなっています。

これからも、2010年度での目標達成を目指して、削減活動を確実に継続していくとともに、調査サンプル数を増やすなどして、算出精度の向上に努めていきます。

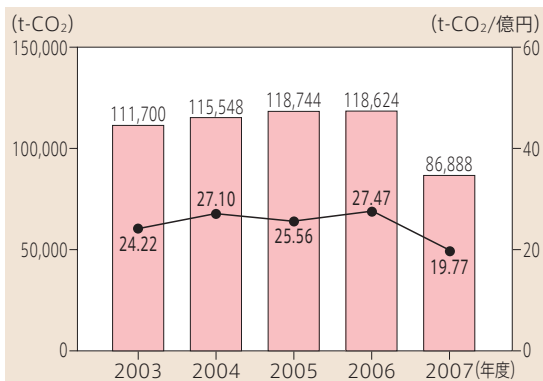
### 品目別総排出量の推移



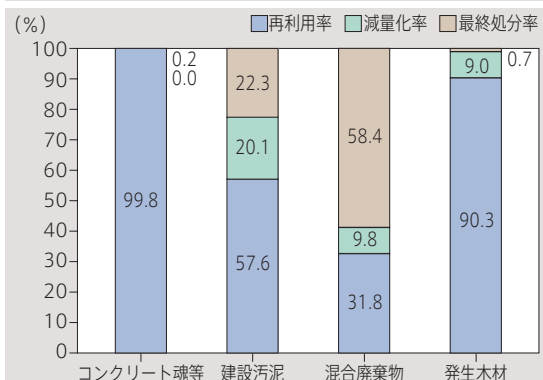
### 最終処分率の推移

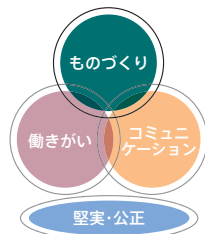


### 二酸化炭素排出量と原単位の推移



### 品目別最終処分率(2007年度)





## グリーン調達と有害・化学物質のリスク管理

建設ライフサイクル全般にわたる環境負荷低減と良好な環境創出のため、グリーン調達を推進しています。また、有害・化学物質問題に適切に対応するため、アスベストやダイオキシン類への対策と適正処理の徹底を図っています。

### グリーン調達の推進

設計段階では、発注者や社内関連部門との打ち合わせを通して、グリーン調達対象品目の採用を提案し、その結果をプロジェクトごとに記録して実績を把握しています。2007年度の1物件当たりの平均採用項目数は6.4でした。

施工段階では、対象品目について採用できるかを作業所で検討し、発注者や設計者に提案することでグリーン調達を推進しています。

事務用品等では、ネット購買システムを導入し、エコ商品を積極的に組み入れることでグリーン購入を促進しています。

#### グリーン調達実績 <設計部門> (単位:件数)

グリーン調達品目	2006年度	2007年度
高炉セメント(コンクリート)	12	10
再生砕石	38	23
デッキプレート	36	23
再生鋼材(鉄筋棒鋼を除く)	19	12
低ホルムアルデヒド製品(木質系等)	48	30
低ホルムアルデヒド製品(接着剤)	21	15
水性塗料	34	20
衛生器具自動水洗	33	21
蛍光灯照明器具(H f 器具)	40	33
その他	92	44

#### グリーン調達実績 <施工部門>

グリーン調達品目	単位	2006年度	2007年度
パーティクルボード	m <sup>2</sup>	76,002	82,730
木質系セメント板	m <sup>2</sup>	1,892	629
高炉セメント(コンクリート)	m <sup>3</sup>	201,329	61,659
高強度コンクリート	m <sup>3</sup>	53,751	9,248
デッキプレート	m <sup>2</sup>	603,068	485,325
メッシュ型枠	m <sup>2</sup>	59,017	15,259
再生鋼材(鉄筋棒鋼を除く)	t	15,630	15,424
建設発生土	m <sup>3</sup>	125,475	93,580
再生砕石	t	117,884	82,584
再生アスファルト混合物	t	18,426	40,669

#### エコ商品調達率

調達項目(大分類)	2006年度	2007年度
事務用品等	56.7%	53.0%
コピー用紙	100.0%	100.0%
その他	16.3%	15.0%
全体	57.9%	55.0%

### ダイオキシン類対策

焼却施設の解体工事では、周辺環境への有害物質飛散対策や作業員に対するダイオキシン類のばく露防止などの特殊技術が必要となります。当社では、煙突解体技術や飛散防止管理技術などを活用した30件以上の施工実績があり、江別市旧ごみ焼却処理場や厚別清掃工場などの日本最大級の解体工事も手がけました。



江別市旧ごみ焼却処理場

### アスベスト対策

アスベスト対策技術は整備されつつありますが、エレベーターシャフト内の工事は、エレベーターのカゴに乗っての作業となるため、作業員の転落の危険性が高いこと、建物を使用しながらの対策が多いため、使用者へのばく露などの心配があります。



アーム型ロボット

#### グリーン調達対象品目

グリーン調達を推進するため、当社では「グリーン調達ガイドライン」を制定している。また、各部門はそのガイドラインに記載された選定条件等に配慮して対象品目を選定、作業所などでの採用を促進している。対象品目についてはその調達実績を集計し、公表に努めている。

#### ばく露(暴露・曝露)

一般的には、直接風雨などにさらされること。建設業では、解体工事時などに工事関係者がダイオキシン類やアスベスト(石綿)の粉じんさらされること。使用中の建物での作業の場合は、使用者へのばく露防止対策が大変重要である。

## 生態系保全と環境教育

建設業は自然環境と深くかかわっており、生態系や生活環境に配慮した取り組みをしています。また、環境活動をさらに推進していくために、各種環境教育・研修などを実施しています。

### ムサシモ

イバラモ科に属する。本州と四国のため池、水田に稀に生育する一年生の沈水植物。葉は反り返り、果実も湾曲する性質があり、これは他の種類に見られない特徴。水域の汚濁、埋め立てにより減少が激しく、絶滅危惧IA類に指定。(資料提供:ため池の自然研究会)

### かん水(灌水)

水を注ぐこと。特に草木や農作物に水を与えること。

### 自然と共生した環境にやさしい施工

北海道北見市の第1南ヶ丘トンネル工事現場近くの丘陵地には、希少猛禽類のオジロワシが生息し、周辺にはイワカゲワラビなどの絶滅危惧種の希少植物が自生していました。周辺環境に配慮して、工事にもなう騒音・振動・粉じんの低減対策や工事現場からの排水浄化対策に取り組みました。また、オジロワシの生息・繁殖環境を保全するため、工事用施設や設備機器は、周辺の自然環境と調和する保護色に統一した配色を施しています。



### 希少植物等の保全対策

小川下池は香川県の代表的なため池です。香川農地防災事業小川下池改修工事では、池の中に自生している希少植物などの保全に取り組みました。絶滅危惧IA類のムサシモ、水草のセンニンモなどを保護するため、仮置き場へ移植したり、その種子を含む低土のかん水管理を徹底しました。工事完了時には、表土や低土とともに池や周辺の指定場所に移植復元することで、生態系保全に努めました。



### 環境教育・研修の実施

新入社員教育では、地球環境問題とその問題解決のために必要な環境マネジメントシステムについて理解を深めています。部門別新入部員教育や技術社員集合教育、社内留学研修などで、部門特有の環境問題に対する教育や研修を実施しています。また、各支店でも、作業所長教育など環境マネジメントシステムに関する階層別教育を実施しています。

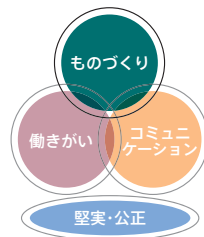


### 戸田地球環境賞の表彰

社員の環境意識の高揚と環境保全活動の促進を目的として「戸田地球環境賞」を設けて、表彰しています。今回は、作業所での環境負荷低減活動など29件の応募があり、次の5件が表彰されました。

- ◆ 太陽電池パネルを壁面利用した地球環境に優しい太陽電池工場の設計
- ◆ 可搬式ダイオキシン類無害化装置の開発と現場適用
- ◆ 建設汚泥の場内再生利用の普及促進
- ◆ 宮川用水第二期地区導水路補修工事における濁水処理対策
- ◆ フラワーサポートプログラム「はな街道」への参加





## 環境会計の結果

環境保全活動への取り組みを定量的に評価し、長期的視野による継続的かつ効率的な活動推進を目的として環境会計を導入し、2000年度より公表しています。

環境保全コスト		(単位:百万円)	
分類	主な活動内容	2006年度	2007年度
(1) 事業エリア内コスト	(小計)	7,255	8,513
① 公害防止コスト	● 作業所における公害防止対策費 (大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・振動防止・地盤沈下等)	2,080	2,189
② 地球環境保全コスト	● 温暖化防止(アイドリングストップ活動費・省エネ機器の採用) ● オゾン層破壊防止(フロン回収・適正処理費)	94	280
③ 資源循環コスト	● 建設廃棄物リサイクル処理費 ● 建設廃棄物処分費 ● 分別ヤード設置費 ● 分別回収費用 ● 発生土再利用費用	5,081	6,044
(2) 上・下流コスト	● 環境配慮設計人件費 ● グリーン調達(差額増分)	203	208
(3) 管理活動コスト	● EMS 定期審査費 ● EMS 整備運用人件費 ● 環境負荷監視の費用 ● 作業所周辺美化緑化対策費	1,503	1,881
(4) 研究開発コスト	● 環境関連技術の研究開発費	433	437
(5) 社会活動コスト	● 地域住民への環境情報の提供 ● 環境関連団体への寄付、協賛金	7	10
(6) 環境損傷コスト	● 緊急事態への対策費 ● 修復基金分担費(マニフェスト伝票代の一部)	26	48
環境保全コスト総額		9,427	11,097

環境保全効果・経済効果						(▲マイナス効果)
分類	内容	単位	2006年度	2007年度	効果	
資源投入	コピー用紙購入量の削減(オフィス業務)	万枚	2,893.7	2,852.2	41.5	
	電力使用量の削減(本支店社屋)	万kWh	271.0	272.4	▲1.4	
環境負荷排出	二酸化炭素排出量の削減(作業所)	t-CO <sub>2</sub>	118,624	86,888	31,736	
	建設廃棄物排出量の削減(作業所)	万トン	74.5	72.7	1.8	
	建設廃棄物再資源化等率の増加(作業所)	%	9.6	10.1	▲0.5	
	建設廃棄物処理費用の削減(作業所)	百万円	4,532	5,294	▲762	

### 環境会計の結果

- 環境保全コストの総額  
約111億円で前年度と比較して約17億円増  
事業エリア内コストが約13億円増(資源循環コストが約10億円増)
- 事業エリア内コスト  
約85億円で全コストに占める割合は76.7%  
資源循環コストが約60億円で54.5%
- 研究開発コスト  
4.37億円で前年度とほぼ同額  
研究開発費総額は22.47億円で環境割合が19.4%(前年度18.4%)
- 環境保全効果と経済効果  
二酸化炭素排出量と建設廃棄物排出量に削減効果
- 環境経営指標  
環境保全コスト総額の売上高比率は2.51%で増加  
資源循環コストを除いた額の売上高比率は1.15%

売上高比率	2005年度	2006年度	2007年度
① 環境保全コスト総額	2.01%	2.15%	2.51%
② 資源循環コスト額	1.14%	1.16%	1.37%
③ 資源循環コストを除いた額	0.87%	0.99%	1.15%

### 環境会計の基本事項

- 集計範囲  
戸田建設株式会社
- 対象期間  
2007年4月1日～2008年3月31日
- ガイドライン  
建設業における環境会計ガイドライン
- 調査方法  
全数調査とサンプリング調査を併用  
作業所関連は102作業所を調査  
人件費関連は1,241名を調査
- 算定方法(環境保全コスト)  
建設廃棄物処分費等は全体集計  
研究開発費は環境割合分析結果から全体推計  
その他はサンプリング調査結果から全体推計
- 算定方法(環境保全効果・経済効果)  
資源投入は前年度からの削減量を算定  
環境負荷排出は前年度からの削減量を算定  
再資源化等率は前年度からの増加率を算定  
処理費用は前年度からの削減額を算定

## パートナーとともに、技術、安全、品質、生産性を高める

戸田建設の作業所で働く職長160名を集め、

2008年5月に、「戸田建設 東京職長会」が発足しました。



## 技術・技能を高め合い

## 技術の伝承と作業所の円滑な運営を目指す

### 報告者



森 敬 氏

戸田建設 東京職長会 初代会長

向井建設(株)所属。東京職長会の前身であるポッパーズの設立にかかわる。2007年度安全優良職長厚生労働大臣顕彰受賞。



津村 昌史

東京支店 建築工事部 作業所長

入社以来、主に東京支店にて、立教女学院、下丸子ザ・リバープレイスなどの工事に従事する。現在は「武蔵小金井南再開発Ⅱ街区作業所」の作業所長を務める。

### 「東京職長会」の発足

戸田建設の作業所では、数多くの作業員が従事しており、協力会社や職種ごとに職長が作業の指揮にあたっています。また、作業所ごとに、職長同士の集まりである「職長会」が結成されています。

2003年、当時の大規模作業所の職長会の構成メンバーが集う「職長会サミット」が開催され、お互いの取り組みや今後の活動の在り方について意見交換をし、「作業員の環境改善」「作業員が働きたいと思える現場」を目指す方向性が打ち出されました。この頃から、「職長会安全パトロール」をおこなったり、他の作業所から職長を招いて見学会を開催したりと、自ら作業所の環境づくりをする活動が活発となっていきました。

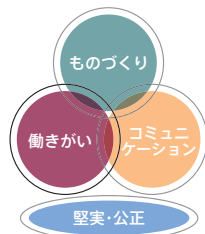
2007年には作業所の枠を超えて職長有志によって「ポッパーズ」という組織が

結成され、その活動範囲が徐々に広がっていきました。これが、戸田建設東京支店、東京利友会、東京支店災害防止協力会とともに、職長の技術・職能のさらなる向上を図り、また、技術の伝承と作業所の円滑な運営に寄与することを目的とした「東京職長会」の発足へとつながっていきました。



東京職長会設立総会の様子





## DATA

### 戸田建設 東京職長会 (概要)

#### 【目的】

職種や立場の異なる職長を作業所の運営を支えるリーダーと位置づけ、本会の活動を通じてさらなる職長の技術・職能の向上ならびに伝承を図りながら、作業所の円滑な運営に寄与する。

#### 【活動内容】

1. 技術、安全衛生、品質、環境、生産性などの向上に関すること
2. 勉強会の開催 (基幹技能者育成、能力向上に関する研修会)
3. 現場見学会の開催、他産業視察
4. 改善活動の活性化
5. 意見交換会
6. 年度ごとの貢献、功績に対する表彰等
7. その他



入会認定証(盾)と会員用ヘルメット

### コミュニケーションを基とし 活動を展開

戸田建設には独自の職長認定制度があり、東京職長会は、この「1級」にあたる160名の職長で構成されています。具体的な取り組み、計画はこれから詰めていく予定ですが、まずは職長同士のコミュニケーションを図り、職長の役割や職長会の方向性を明確にしていくことが先決となります。

また、戸田建設社員と職長・作業員の間でコミュニケーションを円滑にして、相手が何を望むのか、何をすれば全員が働きやすくなるのかを考え、集約していくことで、作業所の生産性の向上を後押しすることができると考えます。



職長認定制度ポスター(一部)

### 現場を起点に 技術の伝承に取り組む

東京職長会の大きな目的の一つに「技術の伝承」があります。技術の伝承とは、単なる伝言ゲームではありません。言葉では伝わらないもの、「本質」を伝えていくこそが伝承です。そして、現場に立ち、モノを見て、考えた者にしか、本当の意味での技術は身につけません。だからこそ、現場経験が豊かな職長に期待されるところは大きく、若手作業員のみならず、戸田建設社員も含め、作業や施工管理のノウハウの伝承が着実におこなわれていけばと考えています。

現在、こうした活動は東京支店のみで実施されていますが、他の支店、作業所へと広がっていくことで、個々のレベルアップとともに、組織全体が活性化し、戸田建設のものづくり、そして戸田ブランドを力強く支える原動力となっていくことを、私たちは確信しています。

#### 職長(しよくちょう)

協力会社の社員で、作業所で部下の作業員を直接指揮・監督し、作業の安全を確保するとともに作業の遂行に責任を持つ、第一線の監督者。

#### 東京利友会

1928年頃からあった協力会社の集まりを、1941年に組織として設立。2008年現在、会員数195社。同様の利友会組織は各支店に存在し、それを束ねるのが全国連合利友会である。

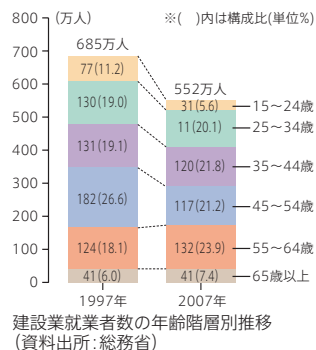
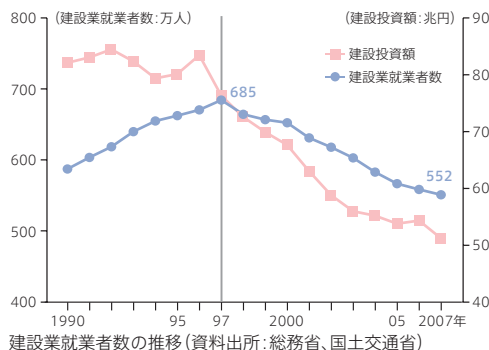
#### 東京支店災害防止協定会

戸田建設東京支店と連携して、安全衛生教育、安全巡回などの活動を実施している。会員数約850社。同様の災害防止協定会は各支店に存在し、それを束ねるのが災害防止協定会連合会である。

### 魅力再生と技術伝承のために

少子化による若年層の労働人口の減少が社会問題となっています。建設業においても、右のグラフのように、就業者数が減少している中で、高齢層の割合が相対的に高まりつつあります。

当社では、今回紹介した東京職長会などの取り組みのほか、労働環境の改善や教育研修などを通して、建設業の魅力をより高めていくとともに技術の伝承といった課題にも取り組んでいます。



# 働きがいのある「場」をつくり出す

## 生き活きと働くために

戸田建設が持つ最大の財産は社員です。  
一人ひとりの人格や個性を尊重し、資質・能力を最大限発揮できる職場づくりを進めています。

### ポジティブアクション

固定的役割分担意識や慣行から、事実上の差が生じ、女性が男性よりも能力を発揮し難い職場環境にあると考えられる場合に、それを解消するために企業がおこなう自主的かつ積極的な取り組みのこと。

### モラルサーベイ

社員意識調査のこと。アンケートを実施し、その回答結果から、社員の意識を定量的に分析・評価し、日ごろは目に見えにくい経営風土・組織・労務管理上の長所や問題点などを把握する。

## 多様性の尊重

### ●女性の職域拡大

少子高齢化など、社会動向の変化を受け、2006年度より、ポジティブアクションの一環として、女性の技術系総合職の活躍促進に取り組んでいます。2008年4月1日時点で、33名の女性技術系総合職が、作業所での施工管理職など、それぞれの職場で活躍しています。

### ●定年退職者の継続雇用

2006年4月に「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」が改正される以前より、定年退職者の継続雇用に取り組んできました。2008年4月1日時点で155名がそれぞれの職場で活躍しています。

### ●障がい者雇用の促進

従来からの継続的な取り組みにより、2007年の障がい者雇用率は法定の1.8%を超える1.92%となっています。

#### 障がい者雇用率の推移(各年6月1日時点)

	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
雇用率	1.92%	2.04%	2.12%	2.08%	1.92%

### ●仕事と生活の両立

社員のライフステージに配慮した就業形態の多様化に向けて、育児休業や介護休業などの制度を設けています。これらの制度を利用しやすくするとともに、一層の活用を図るべく社内への周知と理解の促進を図ります。

### ●セクシュアルハラスメントの防止

セクシュアルハラスメントを絶対に許さないという方針のもとに、社内外の講師による集合研修を定期的実施しています。また、本社・支店に相談窓口を設けており、申し立てがあった場合にも適切な対応が取れる体制を整えています。

## 社員の健康管理

社員の心身両面の健康状態を良好に保つため、年2回の定期健康診断や胃検診の実施、および人間ドックの利用推進などを実施するとともに、精神科の嘱託医によるメンタルヘルス講習会や個別面談を実施しています。



メンタルヘルス講習会の様子

## モラルサーベイの実施

人材および組織のマネジメントを変革することで、企業競争力の向上を図るために、2007年7月に「人材戦略委員会」を立ち上げ、その活動の一環として、全社員を対象にモラルサーベイを実施しました。調査結果から問題点を抽出し、人事考課制度の改定などに着手しています。

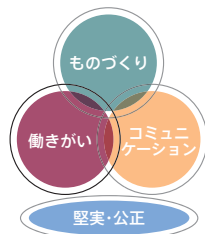
## 社員の声

入社以来、建築工事の作業所に勤務しています。当初は、女性の施工管理職がいなかったため、どこまでやれるか心配でしたが、人の倍以上努力する決意を持って取り組んできました。3年目となった現在も、作業所長をはじめ、先輩方のフォローを受けながら、少しでも早く一人前になれるよう頑張っています。

作業所や女子寮などの環境面については、問題があればすぐに対応してくれるなど、社員の意見に耳を傾けてくれる会社と実感しています。今後も技術系女性総合職がより活躍できる職場環境をつくるためにも積極的に発言したいと思います。



上野 尚佳  
東京支店  
建築工事部



## 教育研修の充実

「豊かな人材と自主的、創造的な人材を創

る」ことを基本方針に定め、OJTを柱とし、階層別、職種別の集合研修を計画的に織り交ぜた能力開発体系を整えています。

### 能力開発体系

職務レベル		初級	中級	上級	基幹	管理	上級管理
階層別教育	総合職	■新入社員一般教育		■上級社員研修	■基幹社員研修	■管理者研修	■上級管理者研修
	一般職	■一般職アドバンス研修		■一般職上級研修			
職種別教育	建築技術系教育	■新入社員専門教育	■2年次研修 ■5年次研修	■社内留学	■作業所長研修		
		■建築設備研修		■各種資格取得のための教育			
	土木技術系教育	■新入社員専門教育		■社内留学	■各種資格取得のための教育		
	■新入社員専門教育	■新入社員 フォロー研修	■2年次研修	■各種資格取得のための教育			
その他	■企業倫理研修						
	■コース変更者へのキャリア研修						
	■英会話研修、国内留学、出向						
	■通信教育制度						

### OJT

日常の業務に就きながらおこなわれる職業能力開発であって、能力開発に関する計画書を作るなどして段階的、継続的に実施するもの。On-the-Job Trainingの略。

## 第1回 戸田建設・設計文化祭「建築が好きだ229」

2007年8月、東京都庭園美術館にて、「第1回 戸田建設・設計文化祭」を開催しました。このイベントは設計部の活性化を目的に、入社2～3年目の若手社員が企画運営を担当し、作品・技術パネルとともに、設計部229名全員で120mm角の透明キューブに自分の想いを込めた作品を作製・展示しました。社内だけでなくお客さま、設計事務所、学生など、総来訪者数は約700名にのぼり、当社の実績・技術力をアピールすることにつながりました。



### 若手社員の声 ものづくりの楽しさを再認識

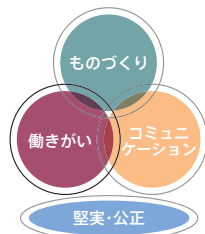
設計文化祭は、若手社員にとってイメージを実物として具現化する、初めてのものづくりとなりました。設計文化祭を通して何よりも実感したことは、団結することで得られる強さです。大げさですが、「この人たちとなら、何でもできる」とさえました。

通常業務をこなしながらの準備は大変でしたが、全員が楽しみながら取り組むことができました。多くの方々のご支援に対する感謝の気持ちをこめて、われわれ若手社員がこれからも当社設計部の一翼を「元気」に担っていきたいと思います。



和久田 幸佑  
本社 計画設計部





## 協力会社との技術交流、技能者の育成

共存共栄の精神のもと、協力会社との信頼関係を深めていくとともに、会社・作業所単位での技術交流、技能者育成に努めています。

### 協力会社との 技術交流・技能者の育成

本社・各支店で組織される協力会社育成委員会において、年度ごとに協力会社の経営基盤の安定性確保と信頼関係の強化を目指すことをテーマとした基本活動項目を設定し、主要なパートナーである協力会社と連携して、活動を推進しています。

#### 協力会社育成委員会の基本活動項目

基本活動項目	実施項目
1. 協力会社育成委員会の開催	・活動課題の検討と活動推進状況把握
2. パートナーシップの醸成	・利友会役員・会員との意見交換会実施 ・土木部会の開催
3. 経営体質の向上	・育成対象会社の調査、指導 ・育成対象会社の実態調査、指導 ・新規協力会社の指導、育成
4. 自主管理能力・施工能力の向上	・自主管理体制の向上 ・職長の能力向上 ・施工評価および結果活用 ・適正な施工体制の確保
5. 技術および生産性の向上	・工法の改善・コストダウンの推進 ・品質・安全管理の推進 ・環境対策の推進
6. その他	・協力会社評価基準の推進と定着 ・倒産問題への適切な対応 ・係争防止と迅速な解決

### ● 協力会社改善提案活動

協力会社やその従業員から、品質向上・能率向上・原価低減・安全向上などに関する改善提案を受け付けています。優秀な提案については、表彰するとともに、全国連合利友会総会での事例発表を実施しています。



事例発表の様子

### ● 土木部会での取り組み

土木工事関連の協力会社で組織される土木部会では、会員各社が自主管理できる課題に取り組んでいます。具体的には、安全パトロールの実施、品質および環境マネジメントシステムの効果的な運用による品質向上、環境関連法規制等の遵守、環境への負荷低減などの研修会を事業主や職長を対象に実施しています。

### ● 作業所での取り組み

作業所独自に勉強会や周知会を開催しています。具体的な作業手順を周知することにより、コンクリートをはじめとする土木構造物の品質向上を図ると同時に、経験工学としての技能の継承を目的として取り組んでいます。



コンクリート打設周知会

### 適正な下請け取引

当社は協力会社との対等な関係を構築し、公正かつ透明な取引を徹底しています。

### ● 下請契約の締結について

見積依頼は、工事内容、工期の契約内容をできる限り具体的に提示し、適正な見積期間設定を遵守し、協議を重ね、着工前に注文書・請書による請負契約を締結するプロセスの徹底を図っています。

### ● 下請代金の支払いについて

労務費相当分の現金払いの徹底、定められた期間内での代金支払い、合意のない相殺行為の禁止など、下請代金支払いの適正化の徹底を図っています。

### 改善提案

創意工夫を奨励し、業務上有益な提案(改善提案)を企業経営に活用することで、企業体質の改善と明るい職場の確立を図るための制度。協力会社以外に、戸田建設社員を対象としても実施している。

## 巨大仮囲いを若手アーティストの発表の場に 「シンジク アート インフィニティ」

新宿区、(株)丸井、トーキョーワンダーサイト、喜多ビルそして戸田建設で構成する合同プロジェクトで、旧マルシティ新宿の建て替え工事によって生じた長さ約70mの巨大仮囲いを有効活用し、若手アーティストの発表の場として提供しています。



### 工事現場の仮囲いを 地域のために活用したい

日本有数の繁華街である東京新宿での工事では、周辺環境の美観を常に意識し、街のにぎやかさを損なうことなく、安全に高品質の建物をつくることが重要となってきます。また、当然なことではありますが、作業所の前を通る人々が安心して歩くことのできる環境を整備し、工事を進めています。

本企画はいろいろなテーマごとに若手アーティストたちの絵や写真が発表されています。工事現場の仮囲いもその都度、変化していきます。新宿を訪れる海外からの観光客や通行人などの中には、この仮囲いを背景にして記念撮影をされる方もいます。時にはシャッターを押してくださいと交通誘導員が頼まれたりもします。

工事現場も日々変化し、進捗しています。建物の無事竣工を目指し、また新宿を訪れる多くの人々に利用され、愛され続ける建物を関係者全員でつくりあげたいと思っています。

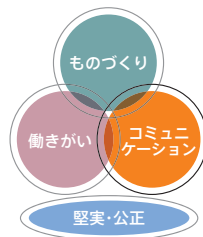


能條 浩之

戸田建設(株)  
東京支店 建築工事業部  
副作業所長



工事の様子と仮囲い



**【企画ご担当の声】  
若者の「無限の可能性」を応援したい**

2007年4月からの2年間、マルイの建て替え工事では、通行される方々に対してご迷惑をおかけしてしまいます。その中で、少しでも街の景観を良くしたいと考えたことが、この企画のきっかけでした。

また、「若者のライフスタイルを応援する」という丸井の企業理念のもと、さまざまな「可能性」を持った若手アーティストを応援し、作品を展示する場所として、仮囲いが利用できるのではと考えました。仮囲いの前を通られた方々が、アートに対して興味を持ち、またアーティストにとっても今後の励みとなっていたら幸いです。



**芝尾 崇孝** 氏  
(株)丸井  
販売企画部販売企画2課

**【若手アーティストの声】  
東京の真ん中で**

この企画についてのお話をいただいた時、まず展示場所に興味を持ちました。

東京の真ん中である新宿で、工事用の仮囲いを利用した展示。普通、絵を展示するといえばギャラリーですが、そうしたギャラリーに足を運ぶ機会のない方や、絵にあまり興味のなかった方にも鑑賞していただけるのが、このシンジुक アート インフィニティです。この企画をきっかけに、今後は、他の多くの場所でも作品の展示が可能になってくると思います。

たくさんの反響をいただき、参加して良かったと思えました。また、面白い企画であると実感しています。



**宮崎 勇次郎** 氏  
シンジुक アート インフィニティ  
第二回企画展 出展アーティスト

**DATA**

企画・運営: シンジुक アート インフィニティ プロジェクト

共 催: 新宿区、(株)丸井、戸田建設(株)

後 援: 東京都

協 力: トーキョーワンダーサイト、喜多ビル

開催期間: 旧マルイシティ新宿建て替え工事期間の2007年4月28日から2009年春までの予定

SHINJUKU ART

撮影: 新建築社

**地域の方々の絵画を展示した「大船渡市民文化会館建設工事」**

大船渡市民文化会館建設工事作業所(岩手県大船渡市)では、長さ約70mの仮囲いに、建設事業にかかわる、市・企画運営委員・設計事務所をはじめ、地元の小・中学生やそのご家族など約200名の方々に「私たちの大好きなまち・大船渡」というテーマで、絵を描いてもらいました。

工事現場と地域社会との接点である仮囲い。当社では、複数の現場において、このような取り組みを実施し、地域の方々とのコミュニケーションを深めています。



**仮囲い**

工事期間中に周辺地域の安全面、環境面などに配慮し、工事現場の外周に設ける囲い。

# 元気で明るい対応、 コミュニケーションを促進する

## 地域社会への貢献

地域社会とのコミュニケーションに努め、事業特性を活かした社会貢献活動を実践し、「良き企業市民」としての役割を積極的に果たしています。

### かんがい用水路

作物栽培に必要な水を、水源(河川、湖、ダム貯水池など)から農地まで、人為的に取水・配分・供給する水路。

### TBM

TBM工法は、巨大なカッターヘッドで削り、削った岩を後方へ排出しながら掘り進む工法。Tunnel Boring Machine の略。

### トリアージ

災害時に治療や搬送の優先順位を決定すること。

### ユレキテル<sup>®</sup>

P21を参照。

### かんがい用水路 トンネル内部を一般公開

2007年4月13日・14日、浜ノ瀬幹線水路建設工事作業所(宮崎県小林市)で、トンネル内部見学会を開催しました。地元一般市民を中心に総勢230名の方々が訪れました。

足に自信のある方の5.4km(往復11km)のウォーキング、坑内1kmまでバッテリー機関車に乗車しての坑内見学と説明、坑外基地ではTBM掘削開始から到達に至るまでの記録ビデオの上映、かんがい事業のパネル展示やTBMのカッター部品の展示などをおこないました。また、参加者には記念品として貫通石や貫通枅、さらには解体したTBMマシンの部品を配布しました。



トンネル内部見学会の様子

### 京橋地域総合防災訓練を実施

2007年9月7日、東京都中央区京橋地域において、当社本社社屋をはじめとする地域の5つのビルおよび入居する企業、地域3町会(京橋東一丁目町会など)合同による、1,000名以上が参加しての防災訓練がおこなわれました。

京橋消防署や中央警察署の指導のもと、逃げ遅れた人をはしご車で救う救出訓練や、けが人を担架で運び医師によるトリアージのうえ、救急車に乗せる救護訓練、起震車を使用し

た地震体験なども実施されました。

この訓練は企業と地域が協力してBCPの策定に取り組んでいるモデルケースとして注目を集め、中央区や近隣の町会の方々も見学に来られました。

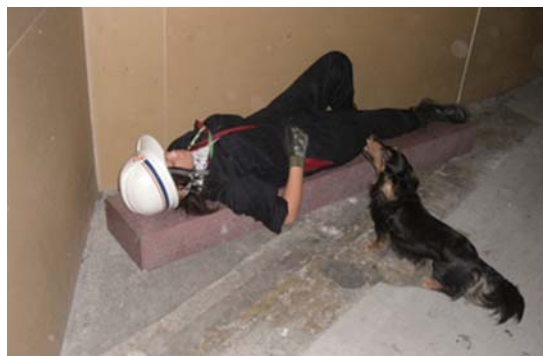
さらに当社独自の取り組みとして、社屋に設置してある『ユレキテル<sup>®</sup>』の発報試験、社員の安否を確認するための安否確認システムの操作訓練を実施しました。



はしご車による救出訓練の様子

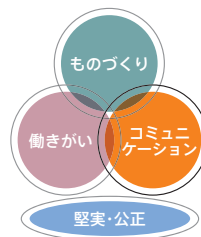
### 解体工事作業所を 災害救助犬の訓練場に提供

2007年9月17日と24日、特定非営利活動法人(NPO法人)「日本救助犬協会」による災害救助訓練が、丸井中野本店解体工事作業所(東京都中野区)にておこなわれました。被災者に見立てた人が隠れて救助犬が探すという震災時を想定した訓練で、48頭の犬が各階にチームごとに分かれ、迫真の訓練が繰り広げられました。



救助犬訓練の様子





## 「はな街道」への参加

東京の日本橋・京橋・銀座を縦貫する「中央通り」を季節の美しい花々で彩る「はな街道」は、NPO法人「はな街道」が国土交通省および中央区、町内会、周辺諸団体などの協力のもとで実施しているボランティア活動です。沿道の企業や住民の方々が自主的に花々の維持管理をおこなうこの活動に、当社もフラワーサポーターとして参加しています。

京橋地区の企業市民の一員として、季節ごとの花の植え替えや、夏・冬におこなわれるクリーンウォークに積極的に参加することを通じて、地域の活性化に貢献しています。



クリーンウォークの様子

## 展覧会への協賛

東京都庭園美術館（旧朝香宮邸）は1933年に当社が施工した建物で、格調高いアール・デコ建築です。この貴重な建物を、より多くの方に知っていただきたいとの“想い”を込めて、各展覧会に協賛しています。



東京都庭園美術館

### 2007年度に東京都庭園美術館で実施した展覧会

4月14日～ 7月1日	モダン日本の里帰り 大正シック —ホノルル美術館所蔵品より—
7月26日～ 9月17日	舞台芸術の世界 ディアギレフのロシアバレエと舞台デザイン
10月6日～ 12月16日	世界を魅了したティファニー 1837-2007
12月23日・24日、 1月12日～14日	アール・デコの館 建物公開とコンサート
1月26日～ 3月31日	建築の記憶

### アール・デコ

1910年代から30年代にかけて、フランスを中心にヨーロッパを席卷した、工芸・建築・絵画・ファッションなどの分野に波及した装飾様式の総称。

## 建設の魅力を次世代につなぐ

毎年、筑波研究学園都市において、「つくばちびっこ博士」というイベントが実施されています。次代を担う子どもたちに、実際の研究所で科学技術に触れ、その関心を高めてもらうことを目的としたもので、当社もその趣旨に賛同し、つくば技術研究所見学会を2007年夏に開催しました。

見学会には、連日の暑さにもかかわらず、数多くの参加があり、子どもたちは制振実験棟でおこなわれた建物の揺れの体感や、超高強度コンクリートの強度試験に非常に興味を示していました。



制振装置の見学



屋上ピオトープの見学



超高強度コンクリートの強度試験の様子

2007年8月1日・2日

戸田建設つくば技術研究所見学会開催

子ども、保護者を含め180名の方々にご参加いただきました。

# IR活動

企業情報の適時開示に努めるとともに、積極的なコミュニケーションを図ることで、株主・投資家からのご意見を企業活動に反映させる取り組みを実施しています。

## IR

投資家向け広報。Investor Relationsの略。

## アニュアルレポート

年次報告書。海外の株主・投資家やお客さま向けに、経営状況を開示する目的で、英文にて作成している。

## ファクトブック

過去数年分の決算、財務関係データを項目ごと、年度順に並べた資料。

## 証券アナリスト

株式を発行している企業の財務内容や収益力を調査し、投資価値を判断する専門家。

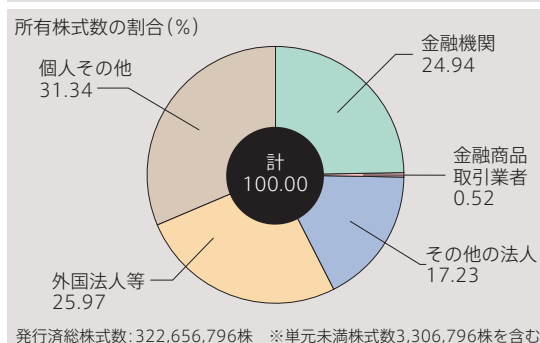
## スモールミーティング

特定の話題について、少人数の証券アナリストらを集め、説明、意見交換をおこなう会合。

## 株主構成の状況

当社は東京証券取引所および大阪証券取引所に上場しており、2008年3月末時点で、株主総数は14,937名となっています。所有株式の割合は、「個人その他」が31.34%、「外国法人等」が25.97%、「金融機関」が24.94%、「その他の法人」が17.23%などとなっています。

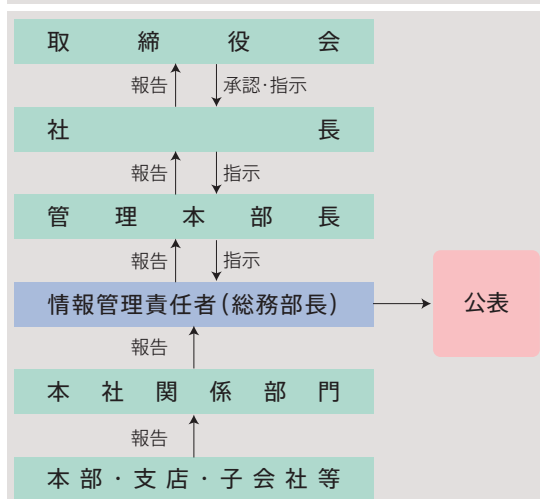
### 株主構成比(2008年3月31日現在)



## 適時開示の実施

当社では、株主・投資家に対し、経営戦略や決算・業績予想などの重要な企業情報を、迅速、正確かつ公平に開示するために、情報管理責任者(総務部長)による一元的な管理を実施しています。

### 適時開示の体制



## IR活動の充実

公平かつ同時に企業情報を開示し、より多くのステークホルダーに当社の経営状況を正しく理解していただくことを目的に、「IR・投資家情報」ホームページの充実に努めています。ここでは、適時開示情報以外にも、事業報告書やアニュアルレポート、決算説明会資料、ファクトブックなどのIR関連資料を掲載しています。

証券アナリストおよび機関投資家向けには、年2回の決算説明会(中間期・通期)やスモールミーティングを開催しています。

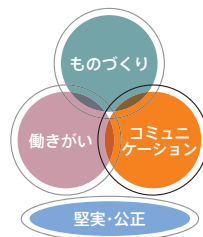


決算説明会の様子(中間決算)

また、決算等の財務情報のみならず、作業所における取り組み、技術開発などの情報開示にも努めています。2007年9月には、丸の内トラストタワー本館新築工事作業所(東京都千代田区)において、証券アナリストら23名を招き、作業所見学会を開催しました。



作業所見学会の様子



## 企業活動情報の開示

戸田建設の活動を広くご理解いただくために、メディアや展示会など、さまざまな媒体を通じて、企業活動情報の開示に努めています。

### コミュニケーションの促進

#### ●ホームページの充実

当社では、お客さまをはじめ、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを促進するため、ホームページや広報誌「TC」の発行を通じて企業活動情報の発信をおこなっています。

ホームページでは、2007年度に「地震と耐震」、「オフィスビルのソリューション」、「海外ネットワーク」の3つのコンテンツを追加しました。



当社ホームページの「地震と耐震」コンテンツ

特に「地震と耐震」コンテンツでは地震の発生メカニズムの説明や耐震補強の事例、最先端技術の紹介、そして現場地震速報システム『ユレキテル<sup>®</sup>』などについてわかりやすく解説しています。

#### ●広報誌の発行

広報誌「TC」は、お客さまをはじめとするステークホルダーと当社を結ぶコミュニケーションツールです。1963年より40年以上にわたり継続して発行し、現在では年3回発行しています。



#### ■主な掲載内容■

対談: Global Eyes 21… 神津十月  
里山通信… 今森光彦 (写真家)  
建築用自然素材を訪ねる旅… 藤森照信 (建築史家)  
快適と持続可能性社会… 田辺新一 (早稲田大学教授)  
古川タク (イラストレーター)

### 「下水道展'07東京」への出展

2007年7月24日からの4日間、東京国際展示場 (東京ビッグサイト) で開催された「下水道展'07東京」に、技術提携をしている西松建設 (株) と共同出展しました。また、当社が幹事会社を務める「省面積立坑システム研究会」としてもブースを出展しました。

この下水道展は、「循環のみちを拓く」をテーマに、下水道事業に関する幅広い分野の最新の技術や機器などを展示紹介する下水道関係では日本最大のイベントです。入場者数も85,245名にのぼりました。



当社の展示ブース

#### 超大口径推進工法

道路法の高さ制限という課題を解決するため、φ3,500mm以上の推進管を2分割し運搬、施工現場で組み立てることにより、短工期・コスト縮減を実現した工法。

#### アクリル樹脂防食被覆工法

従来の下水道トンネル二次覆工コンクリートに替えて、一次覆工終了後にセグメント内面にアクリル樹脂を吹き付けて被覆し、耐食性を確保する工法。

#### ボス供試体

「ボス型枠」を使用し、構造体コンクリートと同時に成形してできた供試体。構造物の非破壊品質検査を実施することができる。

#### バッテリーロコ運行監視システム

シールドトンネル工事に用いられるバッテリーロコ (台車) にICタグを取り付けることにより、坑内運行状況の監視を容易にしたシステム。

## 社員の声

### 「下水道展'07東京」に出展しました

当社は西松建設 (株) と共同出展し、当社の保有技術である「超大口径推進工法」「アクリル樹脂防食被覆工法」「ボス供試体」と西松建設 (株) との共同研究技術である「バッテリーロコ運行監視システム」「ICタグ現場管理システム」など下水道工事に役立つ技術を紹介しました。当ブースへは主に発注者、研究者、コンサルタント会社やメーカーの方々など、4日間で約640名もの方々が足を運んでくれました。



佐藤 孝一  
本社 土木企画部  
主任

# 戸田建設株式会社

CSR 推進部

〒 104-8388 東京都中央区京橋 1-7-1

TEL. (03) 3535-2235

FAX. (03) 3564-6713

<http://www.toda.co.jp/>



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

私たちはチーム・マイナス6%に参加しています

